

XL シリーズ

## **Fujitsu Printer Internet Service 使用説明書**

---

ページプリンタ XL-8400

## 本書について

本書は、本機を良好な状態でご使用いただくために、エンベデッドサーバー（Fujitsu Printer Internet Service）を使用した設定手順および簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。

## 使用条件

本書のすべて、または一部を許可なく複製することは禁じられています。

本書に含まれる情報は、性能改善のため、予告なく変更される場合があります。

本書で説明されている操作は、Windows 10 の印刷環境での操作を例としています。

本ソフトウェアを使用した結果、弊社に故意・重過失がある場合を除き、損害が発生しても弊社は責任を負いません。

## 商標について

Microsoft Windows は、米国またはその他の国における Microsoft Corporation の商標です。PCL は、Hewlett-Packard Company の商標です。Google は Google LLC の商標または登録商標です。

本書で使用されているその他のブランド名および製品名はすべて、それを所有する各企業の登録商標または商標です。

Copyright Fujitsu Limited 2023

---

# 目次

<b>1 はじめに</b> .....	<b>5</b>
動作環境 .....	5
エンベデッドサーバーへのアクセス .....	5
<b>2 エンベデッドサーバーのホームページ</b> .....	<b>6</b>
ログイン .....	6
トップバー .....	7
ナビゲーションメニュー .....	8
各種状態 .....	9
<b>3 ログインについて</b> .....	<b>11</b>
ログインの認証方式 .....	11
<b>4 文書ボックス</b> .....	<b>12</b>
ジョブボックス設定 .....	12
<b>5 デバイス設定</b> .....	<b>13</b>
用紙 / 給紙 / 出力 .....	13
節電 / タイマー .....	14
日付 / 時刻 .....	15
システム .....	16
<b>6 機能設定</b> .....	<b>18</b>
共通 / ジョブ初期値 .....	18
プリンター .....	18
メール .....	22
<b>7 ネットワーク設定</b> .....	<b>26</b>
基本 .....	26
TCP/IP .....	26
プロトコル .....	36
無線 LAN .....	40
<b>8 セキュリティー設定</b> .....	<b>43</b>
デバイスセキュリティー .....	43
ネットワークセキュリティー .....	45
証明書 .....	47

---

<b>9</b>	<b>管理設定</b> .....	<b>49</b>
	部門管理 .....	49
	認証 .....	50
	通知 / レポート .....	52
	履歴設定 .....	53
	SNMP .....	54
	リセット .....	55
<b>10</b>	<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>57</b>
	トラブルシューティング .....	57

# 1 はじめに

Fujitsu Printer Internet Service、以下エンベデッドサーバーは、プリントシステムに組み込まれた Web サーバーです。プリントシステムの状況や設定内容の確認、セキュリティー関連の設定、電子メールの送信などが可能です。

エンベデッドサーバーによって、管理者は用紙やトナーの使用状況や、装着されたオプション機能を確認することができます。エンベデッドサーバーは、デバイス設定の構成、ジョブを監視し、本体操作パネル同様に設定が可能です。

## 動作環境

エンベデッドサーバーは次の環境で動作します。使用する前に確認してください。

### プロトコル

- TCP/IP プロトコルが PC にインストールされている。
- プリントシステムに IP アドレスが設定されている。

### Web ブラウザー

- Microsoft Edge (Microsoft Edge は Microsoft Windows 10 以降で動作します。)
- Mozilla Firefox 14.0 以降
- Google Chrome 21.0 以降

## エンベデッドサーバーへのアクセス

ブラウザのアドレス欄に、プリントシステムのホスト名、または IP アドレスを入力してエンターキーを押します。IP アドレスは、ネットワーク管理者から入手してください。ここでは、Microsoft Edge を使用した場合を例として説明します。

---

**参考：安全のため、Fujitsu Printer Internet Service の操作中に他の Web サイトに不用意にアクセスしないでください。**

---

1. ブラウザーを開きます。
2. プリントシステムのホスト名、または IP アドレスを入力します。ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。  
(例：https://192.168.10.1)

「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります」の画面が表示された場合、証明書の設定をしてください。詳細は、[証明書 \(47 ページ\)](#) を参照してください。または、証明書を設定しないでこのまま続行することもできます。

エンベデッドサーバーのホームページが表示されます。

管理者ログインは、ホームページのログイン欄にユーザー名とパスワードを入力します。初回ログイン時のユーザー名とパスワードは下記を使用してください。これは工場出荷時に設定されているものです。

- ユーザー名：Admin
- パスワード：Admin

## 2 エンベデッドサーバーのホームページ

エンベデッドサーバーのホームページでは、左列のナビゲーションメニューによってカテゴリごとに設定値の確認や変更ができる他、右列ではナビゲーションメニューの選択状況に応じて、消耗品の情報などが表示されます。

The screenshot shows the Fujitsu Printer Internet Service interface. At the top, it displays the model name (XL-8400), host name (NM073A6F), and location. The main content area is divided into several sections:

- 管理者ログイン (Administrator Login):** Includes fields for user name and password, and a login button.
- デバイス状況 (Device Status):** Shows the printer status as 'スリープ中です。' (Sleeping) and the status display as '起動中です。' (Powered on).
- 操作パネル使用 (Operation Panel Usage):** Shows the user status as '使用していません。' (Not used).
- 用紙 (Paper):** A table showing paper levels for different trays and the hand tray.
- トナー (Toner):** Shows the black toner level at 16% and the waste toner status as '正常' (Normal).

給紙元	サイズ	種類	容量	状況
カセット1	A4	普通紙	550	70 %
カセット2	A3	普通紙	550	30 %
カセット3	A4	普通紙	550	100 %
手差しトレイ	A4	普通紙	100	用紙あり

### ログイン

エンベデッドサーバーのすべてのページにアクセスするには、ユーザー名とパスワードを入力し、ログインする必要があります。管理者権限でログインすると、文書ボックス、デバイス設定などを含め、ナビゲーションメニュー上の全ページの操作が可能です。



エンベデッドサーバーへのアクセスに関しては、管理者ログインまたは部門ログインのいずれかを使用することができます。詳細については、[ログインについて \(11 ページ\)](#) を参照してください。

## トップバー

ホームページ最上部のトップバーでは、次の操作が可能です。

### [ ホーム ]

他のページにも表示されるこの [ ホーム ] をクリックすると、簡単にホームページ（トップ画面）に戻ることができます。

### [ 自動更新 ]

エンベデッドサーバー画面を定期的に自動更新させるには、[ 自動更新 ] をチェックしておきます。

参考：[ 自動更新 ] にチェックを入れると、自動ログアウトせずログイン状態が続きます。セキュリティ上、安全に接続するためには、自動更新しないようにチェックを入れないください。

### [ 更新 ]

バーの右端の丸い矢印アイコンをクリックすると、エンベデッドサーバー画面を随時更新することができます。

## ナビゲーションメニュー

ホームページ左列のナビゲーションメニューには、各種機能にアクセスできるページを表示させるバーがまとめられています。各バーをクリックすることにより、次に説明する機能ごとのページへジャンプします。

### [ 自分の情報 ]

[ 自分の情報 ] は、エンベデッドサーバーに部門 ID でログインした場合、またはネットワーク認証がオンの場合に表示されます。

### [ デバイス情報 ]

プリントシステム全体の各種情報が表示されます。[ デバイス情報 ] をクリックすると、次のサブメニューが下に表示されます。

#### [ 構成 ]

機種情報（基本、識別情報、性能）、オプション機器の有無、ソフトウェアバージョン、ネットワークおよびセキュリティ情報が表示されます。

#### [ カウンター ]

印刷ページ数が表示されます。[ 種類 ] ドロップダウンリストで、表示させる印刷ページ数の種類を選択することができます。

#### [ Fujitsu Printer Internet Service について ]

バージョン情報、サポートされているブラウザが表示されます。

### [ ジョブ状況 ]

印刷ジョブ、およびジョブ履歴を含むすべてのデバイスのジョブ情報が表示されます。[ ジョブ状況 ] をクリックすると、次のサブメニューが下に表示されます。権限によって、表示される項目が異なります。

#### [ 印刷ジョブ状況 ]

ジョブの状況を表示します。[ 種類 ] ドロップダウンリストで、表示させるジョブ種類を限定することができます。表示画面を更新するには、[ 更新 ] をクリックします。表示されているジョブの処理を中止するには、[ ジョブ中止 ] をクリックします。各ジョブの詳細を確認するには、そのジョブの [ 番号 ] または [ ジョブ名 ] をクリックしてください。

#### [ 印刷ジョブ履歴 ]

ジョブの履歴を表示します。[ 種類 ] ドロップダウンリストで、表示させるジョブ種類を限定することができます。履歴の一覧を更新するには、トッパー右端の [ 更新 ] をクリックします。各ジョブ履歴の詳細を確認するには、そのジョブの [ 番号 ] または [ ジョブ名 ] をクリックしてください。

### [ 文書ボックス ]

文書ボックスの設定を行います。[ 文書ボックス ] 下には [ ジョブボックス設定 ] があります。詳細については [文書ボックス \(12 ページ\)](#) を参照してください。

### [ デバイス設定 ]

本機の詳細設定を行います。[ デバイス設定 ] 下には [ 用紙 / 給紙 / 出力 ]、[ 節電 / タイマー ]、[ 日付 / 時刻 ]、[ システム ] があります。詳細については [デバイス設定 \(13 ページ\)](#) を参照してください。

[ 機能設定 ]

機能の詳細設定を行います。[ 機能設定 ] 下には [ 共通 / ジョブ初期値 ]、[ プリンター ]、[ メール ] があります。詳細については[機能設定 \(18 ページ\)](#)を参照してください。

[ ネットワーク設定 ]

ネットワークの詳細設定を行います。[ ネットワーク設定 ] 下には [ 基本 ]、[ TCP/IP ]、[ プロトコル ]、[ 無線 LAN ] があります。詳細については[ネットワーク設定 \(26 ページ\)](#)を参照してください。

[ セキュリティー設定 ]

セキュリティーの詳細設定を行います。[ セキュリティー設定 ] 下には [ デバイスセキュリティー ]、[ ネットワークセキュリティー ]、[ 証明書 ] があります。詳細については[セキュリティー設定 \(43 ページ\)](#)を参照してください。

[ 管理設定 ]

管理の詳細設定を行います。[ 管理設定 ] 下には [ 部門管理 ]、[ 認証 ]、[ 通知 / レポート ]、[ 履歴設定 ]、[ SNMP ]、[ リセット ] があります。詳細については[管理設定 \(49 ページ\)](#)を参照してください。

[ リンク ]

当社 Web サイトへのリンクです。Web サイトへアクセスするには、次の説明の URL を使用してください。

[ ドライバーおよび各種ソフトウェアのダウンロード ]

ドライバーなどのダウンロードは、次の Web サイトを使用してください。  
<https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/support/download/>

[ Fujitsu Printer について ]

次の Web サイトをご利用ください。  
<https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/peripheral/printer/>

[ ネットワークオプション ]

オプションのプリンタ LAN カードが装着されている場合、プリンタ LAN カードの Web ページへのリンクが表示されます。

## 各種状態

ホームページは、右列にデバイス状況やユーザー状況、消耗品などの状態が表示されます。プリントシステムの現在の設定を一覧で確認することができます。

[ デバイス状況 ]

プリンターの動作状態を表示します。

- プリンター：プリンターの状態を表示します。
- 状況表示：操作パネルのメッセージディスプレイの内容を表示します。

[ 操作パネル使用 ]

本体の操作パネルの操作内容を表示します。操作パネルでの設定操作は、エンベデッドサーバーでの設定操作より優先される場合があります。

[ 用紙 ]

給紙元ごとの用紙のサイズや種類、容量や残量を表示します。

[トナー]

トナー残量を表示します。また、廃棄トナーの状態を表示します。

## 3 ログインについて

このセクションでは、管理者がドメインおよびユーザーを管理する方法について説明します。管理者は認証機能によって、ユーザーによるエンベデッドサーバーへのアクセス制限やパスワード設定などを実行できます。

### ログインの認証方式

管理者は、次に述べる3つの方法から認証方式を選択して、ユーザーごとに設定することができます。

初回ログイン時のユーザー名とパスワードは下記を使用してください。これは工場出荷時に設定されているものです。

- ユーザー名：Admin
- パスワード：Admin

### ローカル認証

本体に登録されたユーザーを、本体とPC間で1対1の認証を行います。ローカルアカウントのユーザーがエンベデッドサーバーにアクセスするには、[ユーザー名]と[パスワード]を入力し（その下にドロップダウンリストが表示されている場合は、[ローカル]を選択）、[ログイン]をクリックします。

管理者権限でログインした場合は、ナビゲーションメニューには、[デバイス情報]、[ジョブ状況]、[文書ボックス]、[デバイス設定]、[機能設定]、[ネットワーク設定]、[セキュリティ設定]、[管理設定]、および[リンク]が表示されます。

### ネットワーク認証

ネットワーク認証を行うには、プリントシステムが、Windowsドメインネットワークの管理下にあることが前提条件です。ドロップダウンリストからドメインを選択してから[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ログイン]をクリックします。

管理者権限でログインした場合は、ナビゲーションメニューには、[自分の情報]、[デバイス情報]、[ジョブ状況]、[文書ボックス]、[デバイス設定]、[機能設定]、[ネットワーク設定]、[セキュリティ設定]、[管理設定]、および[リンク]が表示されます。

一般ユーザーアカウントでログインした場合は、[デバイス設定]、[機能設定]、[ネットワーク設定]、[セキュリティ設定]、および[管理設定]は表示されません。

ユーザーをネットワーク認証する方法については、[認証 \(50 ページ\)](#) を参照してください。

### 部門管理による認証

認証設定が[オフ]で、部門管理が[オン]に設定されている場合は、部門ID入力欄の上に[部門ログイン]および[管理者ログイン]が表示されます。部門管理IDを[部門ID]に入力し、[ログイン]をクリックします。

---

**参考：**管理者権限でログインする場合は、[管理者ログイン]をクリックしてください。ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

---

部門管理IDを使用してアクセスすると、ナビゲーションメニューには、[自分の情報]、[デバイス情報]、[ジョブ状況]、および[リンク]が表示されます。

## 4 文書ボックス

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した場合に表示されます。

### ジョブボックス設定

このセクションでは、ジョブボックス内のクイックコピージョブ保持数の設定と一時保存文書の自動消去について説明します。

1. ナビゲーションメニューの[文書ボックス]をクリックし、下に表示される[ジョブボックス設定]をクリックします。[ジョブボックス設定]ページが開きます。
2. [クイックコピージョブ保持数]の数値を入力します。0～300まで選択できます。
3. 一時保存文書の印刷後に自動的に消去するには、[一時保存文書の自動消去]のドロップダウンリストより、[1時間]、[4時間]、[1日]および[1週間]を選択します。一時保存文書の印刷後に自動的に消去しないときには、[オフ]にします。
4. [設定]ボタンをクリックします。

## 5 デバイス設定

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した際に表示されます。

必要に応じて次の設定をしてください。詳細は下記を参照してください。

- 用紙 / 給紙 / 出力
- 節電 / タイマー
- 日付 / 時刻
- システム

### 用紙 / 給紙 / 出力

このセクションでは各給紙カセットと手差しトレイにセットされている用紙のサイズ、種類、グループの設定、排紙先の設定および各種の詳細設定を行います。

#### カセット設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙 / 給紙 / 出力]をクリックします。[用紙 / 給紙 / 出力設定]ページが開きます。
2. 各給紙カセットにセットする用紙種類を設定します。
3. [設定] ボタンをクリックします。

#### 手差しトレイ設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙 / 給紙 / 出力]をクリックします。[用紙 / 給紙 / 出力設定]ページが開きます。
2. 手差しトレイにセットする用紙サイズと用紙種類を設定します。
3. [設定] ボタンをクリックします。

#### グループ設定（オプションの拡張給紙ユニットを増設している場合にのみ表示されます）

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙 / 給紙 / 出力]をクリックします。[用紙 / 給紙 / 出力設定]ページが開きます。
2. グループにするカセットの組み合わせを設定します。
3. [設定] ボタンをクリックします。

---

参考：グループ設定された給紙カセットを利用するユーザーを決めることで、簡易的なユーザー別の用紙管理などにも利用できます。

---

#### 排紙先設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙 / 給紙 / 出力]をクリックします。[用紙 / 給紙 / 出力設定]ページが開きます。
2. 排紙先のトレイを設定します。[プリンター]で排紙先を変更できます。
3. [設定] ボタンをクリックします。

## その他の設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙/給紙/出力]をクリックします。[用紙/給紙/出力設定]ページが開きます。
2. 次の設定ができます。
  - [優先給紙元]  
優先して給紙するカセット、手差しトレイを選択できます。
  - [特定用紙種類の動作設定]  
[印刷方向を合わせる]もしくは[速度優先]を選択できます。
  - [用紙セット時の確認]  
用紙をセットしたときに、用紙設定の確認画面を表示するかどうかを給紙元ごとに設定します。
3. [設定] ボタンをクリックします。

## 用紙詳細設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[用紙/給紙/出力]をクリックします。[用紙/給紙/出力設定]ページが開きます。
2. [用紙詳細設定]の[設定/登録] ボタンをクリックします。[用紙詳細設定]ページが開きます。  
次の設定ができます。
  - [カスタム用紙サイズ設定]  
カセットの用紙サイズを指定できます。[サイズ入力 (X)]と[サイズ入力 (Y)]の値を入力してください。
  - [用紙種類の設定]  
各用紙の重さを設定できます。カスタム設定の場合、用紙の重さ、両面印刷の禁止/許可、名前を設定できます。
3. [設定] ボタンをクリックします。

## 節電 / タイマー

このセクションでは節電モードおよびタイマーの詳細設定を行います。

### 節電設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[節電/タイマー]をクリックします。[節電/タイマー設定]ページが開きます。
2. 次の設定ができます。
  - [スリープ時間]  
本機が自動的にスリープ状態になるまでの時間を1～120分の間で設定できます。
3. [設定] ボタンをクリックします。

## タイマー設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[節電/タイマー]をクリックします。[節電/タイマー設定]ページが開きます。

2. 次の設定ができます。

[オートパネルリセット]

自動的にパネルをリセットする設定をします。[オン]にすると、[パネルリセット時間]が表示され、パネルをリセットする時間を5～495秒の間で設定できます。

[週間予約]

週間予約の設定ができます。[オン]または[オフ]を選んでください。詳細設定をする場合、[設定/登録]ボタンをクリックしてください。[週間予約設定]ページが開きます。[スケジュール]で曜日ごとにスリープの[オン]または[オフ]の設定ができます。[オン]にした場合、時刻を入力してください。リトライの設定をするときは、[リトライ回数]で回数の制限の有無、[リトライ回数]、[リトライ間隔]の数値を選択してください。

3. [設定]ボタンをクリックします。

## 日付/時刻

このセクションでは日付および時刻の詳細設定を行います。

### 日付/時刻設定

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[日付/時刻]をクリックします。[日付/時刻設定]ページが開きます。

以下が表示されます。

[現在の時刻]

現在設定されている時刻を表示します。

[標準時 (UTC/GMT)]

現在設定されているグリニッジ標準時を表示します。

2. 状況に応じて、次の設定ができます。

[日時]

[年]、[月]、[日]、[時刻]、[日付形式]、[タイムゾーン]の各設定を選択してください。

3. [設定]ボタンをクリックします。

### 同期

1. ナビゲーションメニューの[デバイス設定]をクリックし、下に表示される[日付/時刻]をクリックします。[日付/時刻設定]ページが開きます。

2. 状況に応じて、次の設定ができます。

ネットワーク上の時刻サーバーを利用して時刻を取得し、定期的に正確な時刻が設定できます。時刻サーバーのホスト名またはIPアドレスを入力した後、[同期]ボタンをクリックします。

ホスト名を使用する場合は、あらかじめDNSサーバーを設定する必要があります。

時刻は、各種レポートを本機からのメールとして送信するのに必要です。レポートメールの設定を行っている場合は、時刻を正しく設定することをお勧めします。

3. [設定] ボタンをクリックします。

## システム

このセクションではシステムの詳細設定を行います。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [リセット] のページで行ってください。

### デバイス情報

1. ナビゲーションメニューの [デバイス設定] をクリックし、下に表示される [システム] をクリックします。 [システム設定] ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。  
[ホスト名]、[固定資産番号]、[場所] の情報を入力してください（半角英数字記号のみ）。  
ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。
3. [設定] ボタンをクリックします。

### 基本

1. ナビゲーションメニューの [デバイス設定] をクリックし、下に表示される [システム] をクリックします。 [システム設定] ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。  
[RAM ディスクモード]  
RAM ディスクモードを使用する場合、[オン] を選択してください。  
[RAM ディスクサイズ]  
RAM ディスクの容量を設定します。  
[A4/Letter の共通仕様]  
A4 サイズと Letter サイズの用紙を、共通サイズとみなして給紙可能とします。 [オン] にすると、A4 サイズを指定して印刷を行う際、A4 用紙がなくても、Letter 用紙があれば Letter 用紙で印刷を行います。 [オフ] の場合、同じく A4 サイズを指定して印刷を行う際、A4 用紙がなければ用紙切れ表示を行い、印刷は行いません。  
[高度調整]  
本機の使用環境に応じて標高を選択できます。
3. [設定] ボタンをクリックします。

### エラー設定

1. ナビゲーションメニューの [デバイス設定] をクリックし、下に表示される [システム] をクリックします。 [システム設定] ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。  
[手差し紙なし表示]  
手差しトレイの紙がなくなった場合、表示の有無を選択します。

[エラー後自動継続]

エラー発生後に自動継続の有無を選択します。[オン]にした場合、自動継続時間を5～495秒の数値で選択できます。

[トナー残量少の通知]

トナーが残り少なくなったときに、トナーを発注するタイミングを管理者に通知するトナー残量を設定します。この通知は、Event Report、ステータスマニター、SNMPTrap（印刷機器管理システムなど）に使用するものです。

[オフ]にした場合、トナー残量が5%になると通知します。

[オン]をした場合、通知する[トナー残量]を5～100%の数値で選択できます。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

## 6 機能設定

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した際に表示されます。必要に応じて次の設定をしてください。詳細は下記を参照してください。

- 共通 / ジョブ初期値
- プリンター
- メール

### 共通 / ジョブ初期値

このセクションではジョブ初期値設定、出力初期値設定など各種の詳細設定を行います。

#### ジョブ初期値設定

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[共通 / ジョブ初期値]をクリックします。[共通 / ジョブ初期値設定]ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。

[文書名]

ジョブで使用する初期値の文書名を入力してください。

[付加情報]

日時、ジョブ番号などが選択できます。

3. [設定] ボタンをクリックします。

#### 出力初期値設定

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[共通 / ジョブ初期値]をクリックします。[共通 / ジョブ初期値設定]ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。

[XPS 印刷サイズ調整]

XPS データを印刷するときの印刷サイズを指定します。[オン]に設定すると、用紙サイズに合うようデータを調整して印刷し、[オフ]に設定すると、元のサイズのまま印刷します。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### プリンター

このセクションではプリンターの詳細設定を行います。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は[リセット]のページで行ってください。

#### 基本

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[プリンター]をクリックします。[プリンター設定]ページが開きます。

## 2. 状況に応じて、次の設定ができます。

### [エミュレーション]

エミュレーションを設定します。

### [給紙指定動作]

印刷時に指定したサイズや種類の用紙が給紙元がない場合、どのように給紙処理を行うかを指定します。[自動]に設定すると、指定した給紙元に指定の用紙がない場合、自動的に他の給紙元を検索して指定と一致する用紙をさがします。[固定]に設定すると、指定した給紙元に指定の用紙がない場合でも、他の給紙元の検索は行いません。

### [改ページ待ち時間]

待ち時間を5～495秒の間で、5秒単位で指定します。待ち時間の中にデータが受信されない場合に、改ページが行われます。初期設定値は30秒です。

### [ジョブ名]

ジョブ番号、ジョブ名などを選択できます。

### [ユーザー名]

ユーザー名の有無を選択できます。

### [バナー印刷前の確認]

バナー（長尺用紙）を連続印刷する際に、ページごとに確認画面が表示されます。このメニューは、この確認画面を表示するか（[オン]）または表示しないか（[オフ]）を設定します。

### [ワイド A4]

ワイド A4 サイズの印刷有無を選択できます。

### [自動カセット切り替え]

印刷中に給紙カセットに用紙がなくなった場合の動作を選択します。  
[オフ]を選択すると、用紙がなくなった場合、カセットに用紙の補給を要求するメッセージが表示され、印刷を停止します。メッセージに表示されたカセットに用紙をセットすると、印刷を再開します。また、他のカセットを選択して印刷することもできます。  
[オン]を選択すると、用紙がなくなっても、用紙サイズと種類が一致する他のカセットがあるときは、印刷を自動的に継続します。

### [印刷ジョブの終端]

使用環境や他の理由で印刷ジョブが最後まで処理されなかった場合に、ジョブ終端とみなす条件を設定します。[EOJ(End of Job)]を選択すると、ジョブデータの終端(!R!RES;EXIT;)の検出までを1ジョブとします。[ネットワークセッションの終了]を選択すると、ネットワーク接続の1セッション中に含まれるデータを1ジョブとします。[UEL(Universal Exit Language)]を選択すると、ジョブの終端部のUELの検出までを1ジョブとします。

### [Web ページからのダイレクトプリント]

Fujitsu Printer Internet Service からのダイレクトプリントをする場合は、[許可する]を選択します。

## 3. [設定] ボタンをクリックします。

## ダイレクトプリントの実行

Fujitsu Printer Internet Service からのダイレクトプリントをする手順は次のとおりです。

---

参考：ダイレクトプリントを実行するには、[機能設定]>[プリンター]ページの[基本]>[Webからのダイレクトプリント]で[許可する]を選択しておく必要があります。

---

1. ブラウザーを起動します。
2. [https://\[本機のホスト名\]](https://[本機のホスト名])または IP アドレスを指定して、Fujitsu Printer Internet Service を起動します。
3. [ホーム]をクリックして、ホームページを表示します。
4. [デバイス状況]の[プリンター]アイコン右隣にある[ダイレクトプリント]ボタンをクリックします。
5. [ダイレクトプリントファイル]右隣にある[ファイルの選択]ボタンをクリックします。  
[アップロードするファイルの選択]ウィンドウが表示されるので、印刷するファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。
6. ジョブ設定をします。
  1. [用紙選択]ドロップダウンリストから給紙元を選択します。
  2. [部数]に印刷する部数を入力します。
  3. [両面]の印刷モードを[片面]、[両面長辺とじ]、[両面短辺とじ]から選択します。
  4. トナーセーブ機能の[オン]または[オフ]を行います。[オン]を選択すると、[トナー節約レベル]を[1(低)]～[5(高)]の範囲で選択できます。
  5. PDF が暗号化されている場合は、[暗号化 PDF パスワード]にパスワードを入力します。
  6. XPS データを印刷するときの印刷サイズを指定します。[XPS 印刷サイズ調整]を[オン]に設定すると、用紙サイズに合うようデータを調整して印刷し、[オフ]に設定すると、元のサイズのまま印刷します。
  7. [排紙先]ドロップダウンリストから排紙先を選択します。
7. [印刷]ボタンをクリックします。選択したファイルがプリンタードライバーを介さずに印刷されます。

---

参考：ダイレクトプリントが対応しているファイルは PDF、JPEG、TIFF、XPS、OpenXPS です。

PDF ファイルを印刷するには、[機能設定]>[プリンター]ページの[基本]>[エミュレーション]で[KPDL]または[KPDL(自動)]を選択しておく必要があります。

---

## AirPrint 設定

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[プリンター]をクリックします。[プリンター設定]ページが開きます。
2. [設定/登録]ボタンをクリックします。[AirPrint 設定]ページが表示されます。

次の設定ができます。

[AirPrint]

初期値は [オン] に設定されています。

[Bonjour 名]

本機の Bonjour 名を入力します。

[ 場所 ]

本機の設置場所を、[ デバイス設定 ] の [ システム設定 ] ページにある [ 場所 ] で入力します。

---

参考：[ 場所 ] を入力すると、携帯端末から印刷機器を選択する画面で、機器名の下に場所が表示されます。また、Fujitsu Printer Internet Service のタイトル（右上部）にも表示されます。

---

[ 地理位置情報 ]

本機の地理位置情報を設定するかどうかを指定します。[ オン ] に設定すると、[ 緯度 ]、[ 経度 ]、および [ 高度 ] が表示されます。

---

参考：[ 地理位置情報 ] が [ オフ ] に設定されていても、AirPrint は動作します。

---

[ 緯度 ]

本機の地理位置情報として、緯度を -90.000000 ～ 90.000000 度の範囲で入力します。

[ 経度 ]

本機の地理位置情報として、経度を -180.000000 ～ 180.000000 度の範囲で入力します。

[ 高度 ]

本機の地理位置情報として、高度を 0 ～ 10000m の範囲で入力します。

## ページ制御設定

1. ナビゲーションメニューの [ 機能設定 ] をクリックし、下に表示される [ プリンター ] をクリックします。[ プリンター設定 ] ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。

[ 両面 ]

印刷モードを [ 片面 ]、[ 両面長辺とじ ]、[ 両面短辺とじ ] から選択できます。

[ 部数 ]

印刷部数を入力します。

[ 印刷の向き ]

印刷方向を [ たて ] または [ よこ ] から選択できます。

[ 改行 (LF) 動作 ]

改行 (LF) と復帰 (CR) の設定を行います。

[ 復帰 (CR) 動作 ]

改行 (LF) と復帰 (CR) の設定を行います。

[ 印刷範囲の補正 (たて) ]

印刷範囲 (たて) を -76.0 ～ +76.0 mm の範囲で補正します。

[ 印刷範囲の補正 (よこ) ]

印刷範囲 (よこ) を -76.0 ～ +76.0 mm の範囲で補正します。

---

参考：[印刷範囲の補正]を使用する場合は、プリンタードライバーの[PCL XL] ボタンをクリックし、[PDL( ページ記述言語 )] ダイアログボックスの[言語選択] リストから、[PCL 5e] を選択してください。

---

3. [設定] ボタンをクリックします。

### 印刷品質設定

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[プリンター]をクリックします。[プリンター設定] ページが開きます。
2. 状況に応じて、次の設定ができます。

#### [スモーキング]

9600 dpi 相当 (600dpi×15 階調) × 600 dpi のなめらかな印刷を実現する、スモーキング機能の[オン]または[オフ]を行います。

#### [トナーセーブ]

トナー使用量を抑えて印刷コストを低減する、トナーセーブ機能の[オン]または[オフ]を行います。初期設定は[オフ]です。[オン]を選択すると、[トナー節約レベル]を[1 (低)]～[5 (高)]の範囲で選択できます。

#### [解像度]

解像度を、ドロップダウンリストから選択します。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### アプリフィルター

アプリフィルターの設定を行います。アプリフィルターは、受信した印刷データを指定したコードで変換して印刷する機能です。

#### [USB]、[ロジカルプリンター 1 (～ 4)]

[オン]を選択すると、USB またはロジカルプリンター 1 (～ 4) からの印刷データに対してアプリフィルターが設定され、EUC から Shift-JIS へ変換されます。

また、次の設定ができます。

#### [開始文字列]

変換処理を行う対象テキストの、最初の文字列を指定します。入力可能な文字数は、半角で 15 文字です。

#### [終了文字列]

変換処理を行う対象テキストの最後の文字列を指定します。初期設定は \f です。入力可能な文字数は、半角で 15 文字です。

## メール

このセクションではメールの詳細設定を行います。

### SMTP

1. ナビゲーションメニューの[機能設定]をクリックし、下に表示される[メール]をクリックします。[メール設定] ページが開きます。

## 2. 状況に応じて、次の設定ができます。

### [SMTP プロトコル]

SMTP の接続有無が表示されます。設定は [プロトコル設定] ページの [SMTP (メール送信)] で行ってください。

### [SMTP サーバー名]

SMTP サーバーの名前または IP アドレスを入力します。サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーを設定する必要があります。DNS サーバーの設定は、[TCP/IP 設定] ページで行います。

### [SMTP ポート番号]

SMTP が使用するポート番号を入力します (初期設定は 25)。通常は 25 を使用しますが、用途と運用に合わせて変更してください。たとえば、SMTP over SSL 接続でのデフォルトポート番号は 465、SMTP 認証のときは 587 が一般的に使用されます。

### [SMTP サーバーのタイムアウト]

SMTP サーバーへの接続がタイムアウトするまでの時間を、秒単位で指定します。

### [認証]

SMTP 認証を行うかどうか、また [POP before SMTP] を認証方式として使用するかを設定します。[オン] または [POP before SMTP] を選択した場合、[使用するユーザー] をドロップダウンリストから選択できます。[使用するユーザー] から [その他] を選択した場合、[ログインユーザー名] と [ログインパスワード] を入力します。

### [SMTP セキュリティー]

SMTP セキュリティーが有効なときは、設定した項目名を表示します。[SSL/TLS] または [STARTTLS] が選択されている場合に有効です。設定は [プロトコル] ページで行ってください。

### [POP before SMTP のタイムアウト]

POP3 サーバーへの接続がタイムアウトするまでの時間を、秒単位で指定します。[認証] で [POP before SMTP] を選択した場合に設定できます。

### [接続確認]

本ページで設定した内容が正しいかどうかをテストします。[テスト] ボタンを押すと、SMTP サーバーへ接続を試みます。

### [ドメイン制限]

ドメイン制限の有無を設定できます。[ドメインリスト] ボタンを押して設定してください。許可、または拒否する宛先のドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

[設定] ボタンをクリックします。

## POP3

1. ナビゲーションメニューの [機能設定] をクリックし、下に表示される [メール] をクリックします。[メール設定] ページが開きます。

2. 状況に応じて、次の設定ができます。

### [POP3 プロトコル]

POP3 の接続有無が表示されます。設定は [プロトコル設定] ページの [POP3 (メール受信)] で行ってください。

[ 着信チェック間隔 ]

着信メールの有無を確認するために、POP3 サーバーに接続する間隔を分単位で設定します。間隔を 3 ～ 60 分の範囲で指定してください。初期設定値は 15 分です。

[ 直ちに実行 ]

[ 受信 ] ボタンをクリックすると、直ちに POP3 サーバーに接続し、着信メールの有無をチェックします。また、着信メールがある場合は、受信メールを印刷します。

[ ドメイン制限 ]

ドメイン制限の有無を設定できます。[ ドメインリスト ] ボタンを押して設定してください。許可、または拒否する宛先のドメイン名を入力します。メールアドレスも指定できます。

[POP3 ユーザー設定]

[ 設定 / 登録 ] ボタンをクリックして、次のユーザー設定をしてください。ユーザー 1 ～ 3 まで設定できます。

1. ユーザー設定 1 (～ 3) : ユーザーを有効、または無効に設定します。
2. メールアドレス : メールアドレスを入力します。
3. POP3 サーバー名 : POP3 サーバーのホスト名、または IP アドレスを入力します。ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。
4. POP3 ポート番号 : POP3 が使用するポート番号を入力します (初期設定は 110)。通常は 110 を使用しますが、用途と運用に合わせて変更してください。たとえば、POP3 over SSL のときは 995 が一般的に使用されます。
5. POP3 サーバーのタイムアウト : POP3 サーバーへの接続がタイムアウトするまでの時間を、秒単位で指定します。
6. ログインユーザー名 : POP3 アカунトのログインユーザー名を入力します。
7. ログインパスワード : POP3 アカунトのログインパスワードを入力します。
8. APOP の使用 : APOP を有効または無効に設定します。APOP は POP3 サーバーとの通信中に、ログインパスワードを暗号化するために使用される暗号化メカニズムです。[ オフ ] の場合、ログインパスワードは、プレーン ASCII テキストを使用して送信されます。[ オン ] の場合、ログインパスワードは、暗号化されて送信されるため読み取ることができません。APOP を使用するには、POP3 サーバーが APOP をサポートし、設定が有効であることが必要です。
9. POP3 セキュリティー : POP3 セキュリティーを有効または無効にするかを設定します。[ SSL/TLS ] または [ STARTTLS ] が選択されている場合に有効です。設定は [ プロトコル設定 ] ページで行ってください。POP3 セキュリティーを使用する場合、サーバー設定に合わせて POP3 ポート番号の変更が必要になる場合があります。
10. 接続確認 : 設定した内容が正しいかどうかをテストします。[ テスト ] ボタンを押して、POP3 サーバーへ接続を試みます。
11. サーバーからのメールを削除する : 受信後に、POP3 サーバー上のメールを削除する設定を行います。[ オン ] に設定すると、サーバー上のメールは受信後削除されます。[ オフ ] に設定すると、受信後もメールは削除されません。
12. メール受信のサイズ制限 : メールを受信可能な最大サイズを、キロバイトで入力します。受信サイズ制限を無効にするには、0 を設定します。
13. カバーページ : メールを受信後、添付ファイルと共にメール本文の印刷を行うかを設定します。[ オン ] に設定すると、添付ファイルとメールの本文が印刷されます。添付ファイルが存在しない場合は、メール本文のみが印刷されます。[ オフ ] に設定すると、添付ファイルのみ印刷されます。添付ファイルが存在しない場合、印刷は行われません。

**3.** [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## メール送信設定

1. ナビゲーションメニューの [ 機能設定 ] をクリックし、下に表示される [ メール ] をクリックします。 [ メール設定 ] ページが開きます。

2. 状況に応じて、次の設定ができます。

[ メール送信のサイズ制限 ]

送信可能なメールの最大サイズをキロバイトで入力します。SMTP サーバーで送信メールのサイズを制限している場合は、サイズを入力してください。メールのサイズが入力した値よりも大きい場合、エラーを表示し、メールは送信されません。SMTP サーバーで送信メールのサイズを制限していない場合は、0 を入力してください。

[ 差出人アドレス ]

本機が送信するメールの、差出人のアドレスを表示します。

[ 署名 ]

メール本文の最後に挿入される署名を表示します。

[ 機能初期値 ]

機能の初期値の変更は [ 共通 / ジョブ初期値設定 ] ページで行ってください。

3. [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## 7 ネットワーク設定

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した際に表示されます。オプションの有無によって、表示される項目が異なる場合があります。

必要に応じて次の設定をしてください。詳細は下記を参照してください。

- 基本
- TCP/IP
- プロトコル
- 無線 LAN

### 基本

このセクションではネットワークの基本設定を行います。

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[基本]をクリックします。[基本]ページが開きます。
2. [優先ネットワーク（クライアント）]ドロップダウンリストから、[有線]、[Wi-Fi]または[オプションネットワーク]を選択します。
3. [ホスト名]に現在の接続状況が表示されます。設定は[システム設定]ページで行ってください。
4. [NetBIOS 名]にホスト名が表示されます。必要に応じて修正してください。
5. [LAN インターフェイス]ドロップダウンリストから、[自動]、[10BASE-Half]、[10BASE-Full]、[100BASE-Half]、[100BASE-Full]または[1000BASE-T]を選択します。
6. [クライアント証明書]に現在の状況が表示されます。設定する場合、[設定/登録]ボタンをクリックします。[証明書設定]ページが開くので、該当する証明書を選択してください。証明書自身をクリックすると、内容が表示されます。

[設定]ボタンをクリックすると確定します。

デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定]の[証明書]ページで行ってください。

7. [設定]ボタンをクリックします。

### TCP/IP

このセクションでは、TCP/IP の詳細設定を行います。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は[リセット]のページで行ってください。

#### 基本設定（有線ネットワーク）

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定]ページが開きます。
2. 設定する場合、[TCP/IP]を[オン]にしてください。
3. [設定]ボタンをクリックします。

### 基本設定（無線ネットワーク）

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定]ページが開きます。
2. 設定する場合、[TCP/IP]を[オン]にしてください。
3. [設定]ボタンをクリックします。

### 基本設定（共通）

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定]ページが開きます。
2. DNS サーバーによって割り当てられている IP アドレスが変更された場合に、ダイナミック DNS を使用して、自動的に割り当て直すかどうかを指定します。設定する場合、[ダイナミック DNS]を[オン]にしてください。
3. [設定]ボタンをクリックします。

### プロキシ設定

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定]ページが開きます。
2. プロキシを設定する場合は、[プロキシ]を[オン]にして、必要に応じて、次の設定をします。

#### [自動検出]

プロキシサーバーを自動検出する場合は、[オン]を選択します。

#### [自動構成スクリプトを使用]

自動構成スクリプトを使用する場合は、[オン]を選択し、アドレスを入力します。

#### [プロキシサーバー (HTTP)]

プロキシサーバー (HTTP) のホスト名、または IP アドレスを入力します。ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。

#### [ポート番号]

プロキシサーバー (HTTP) のポート番号を入力します。

#### [すべてのプロトコルでこのプロキシを使用]

すべてのプロトコルで同じプロキシを使用する場合は、[オン]を選択します。

#### [プロキシサーバー (HTTPS)]

プロキシサーバー (HTTPS) のホスト名、または IP アドレスを入力します。ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。

#### [ポート番号]

プロキシサーバー (HTTPS) のポート番号を入力します。

#### [プロキシを使用しないドメイン]

プロキシを使用しないドメインのアドレスを入力します。複数ある場合は、アドレスとアドレスの間にはセミコロン ";" を使用してください。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### IPv4 設定（有線ネットワーク）

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

#### [DHCP/BOOTP]

DHCP または BOOTP を使って、IP アドレスの自動取得を行うかどうかを指定します。

#### [Auto-IP]

Auto-IP が [オン]（使用する）の場合、169.254.0.1 から 169.254.255.254 までの IP アドレスが自動生成されます。ただし、DHCP サーバーや手動設定による IP アドレスが、Auto-IP のアドレスと同時に割り当て可能になった場合は、Auto-IP が [オン] に設定されていても Auto-IP による IP アドレスの自動生成は行われません。

手動設定で [IP アドレス] にアドレスがすでに入力されている場合は、削除してください。その後、設定を有効にするために、ネットワークを再起動する必要があります。自動生成された IP アドレスは、[デバイス情報] をクリックして表示される [構成] ページに表示されます。

#### [IP アドレス]

[DHCP/BOOTP] が [オフ] の場合、システムのネットワーク設定の一部として、静的 IPv4 アドレスを入力できます。[DHCP/BOOTP] が [オン] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。IPv4 アドレスのフォーマットは、ピリオドで区切られた数字です。

例：192.168.110.171

#### [サブネットマスク]

サブネットマスクを指定します。[DHCP/BOOTP] が [オン] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

#### [ドメイン名]

本機が所属するドメイン名を指定します。ホストプリンター名は含みません（例：abcde.com）。[DHCP/BOOTP] が [オン] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### IPv4 設定（無線ネットワーク）

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

#### [DHCP/BOOTP]

DHCP または BOOTP を使って、IP アドレスの自動取得を行うかどうかを指定します。

#### [Auto-IP]

Auto-IP が [オン]（使用する）の場合、169.254.0.1 から 169.254.255.254 までの IP アドレスが自動生成されます。ただし、DHCP サーバーや手動設定による IP アドレスが、Auto-IP のアド

レスと同時に割り当て可能になった場合は、Auto-IP が [ オン ] に設定されていても Auto-IP による IP アドレスの自動生成は行われません。

手動設定で [ IP アドレス ] にアドレスがすでに入力されている場合は、削除してください。その後、設定を有効にするために、ネットワークを再起動する必要があります。自動生成された IP アドレスは、[ デバイス情報 ] をクリックして表示される [ 構成 ] ページに表示されます。

### [ IP アドレス ]

[ DHCP/BOOTP ] が [ オフ ] の場合、システムのネットワーク設定の一部として、静的 IPv4 アドレスを入力できます。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。IPv4 アドレスのフォーマットは、ピリオドで区切られた数字です。

例：192.168.110.171

### [ サブネットマスク ]

サブネットマスクを指定します。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

### [ ドメイン名 ]

本機が所属するドメイン名を指定します。ホストプリンター名は含みません（例：abcde.com）。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

## 3. [ 設定 ] ボタンをクリックします。

### IPv4 設定（共通）

1. ナビゲーションメニューの [ ネットワーク設定 ] をクリックし、下に表示される [ TCP/IP ] をクリックします。[ TCP/IP 設定 ] ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

#### [ デフォルトゲートウェイ ]

デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。IPv4 設定（有線ネットワーク）および IPv4 設定（無線ネットワーク）の両方で [ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

#### [ DNS サーバー（プライマリー、セカンダリー） ]

プライマリーおよびセカンダリー DNS（ドメインネームシステム）サーバーの IP アドレスを設定します。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] の場合、[ DHCP から DNS サーバーを使用 ] または [ 次の DNS サーバーを使用 ] を選択できます。[ 次の DNS サーバーを使用 ] を選択した場合、DNS サーバーの IP アドレスをプライマリーとセカンダリーに入力できます。

#### [ DNS 検索サフィックス（プライマリー、セカンダリー） ]

プライマリーおよびセカンダリー DNS（ドメインネームシステム）検索サフィックスを設定します。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] の場合、[ DHCP から DNS 検索サフィックスを使用 ] または [ 次の DNS 検索サフィックスを使用 ] を選択できます。[ 次の DNS 検索サフィックスを使用 ] を選択した場合、DNS 検索サフィックスをプライマリーとセカンダリーに入力できます。

#### [ WINS サーバー（プライマリー、セカンダリー） ]

プライマリーおよびセカンダリー WINS サーバーの IP アドレスを指定します。[ DHCP/BOOTP ] が [ オン ] の場合、[ DHCP から WINS サーバーを使用 ] または [ 次の WINS サーバー

を使用]を選択できます。[次の WINS サーバーを使用]を選択した場合、WINS サーバーの IP アドレスをプライマリーとセカンダリーに入力できます。

[ホスト名]

ホスト名の取得方法を設定します。ホスト名を DHCP サーバーから取得する場合は、[DHCP/BOOTP]を[オン]に設定し、[DHCP からホスト名を使用]を選択します。ホスト名を手動で設定する場合は [デバイス設定からホスト名を使用]を選択します。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

### IPv6 設定（有線ネットワーク）

**1.** ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[IPv6]

IPv6 プロトコルを有効にするかどうかを設定します。使用する場合は、[オン]にします。

[IP アドレス]

システムのネットワーク設定の一部として、静的 IPv6 アドレスを入力できます。本機に IPv6 のアドレスを割り当てます。IPv6 アドレスのフォーマットは、2001:db8:3c4d:15::1a2c:1a1f のように、コロンで区切られた数字です。

[プレフィックス長]

IPv6 のプレフィックス長を入力します。0 - 128 の 10 進数で入力します。

[RA (Stateless) ]

RA (Stateless) が [オン] に設定され、ネットワークインフラ側から IPv6 アドレスプレフィックスを RA 情報で提供される場合、IPv6 ステートレスアドレスがプリントシステムに割り当てられます。

[DHCPv6 (Stateful) ]

DHCPv6 (Stateful) が [オン] に設定され、ネットワークインフラ側から "Managed address configuration" を提供される場合、DHCPv6 サーバーによって IPv6 ステートフルアドレス (128 ビット長) がプリントシステムに割り当てられます。

[ドメイン名]

本機が所属するドメイン名を指定します。[DHCPv6 (Stateful) ] が [オフ] の場合に入力できます。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

### IPv6 設定（無線ネットワーク）

**1.** ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[IPv6]

IPv6 プロトコルを有効にするかどうかを設定します。使用する場合は、[オン]にします。

[IP アドレス]

システムのネットワーク設定の一部として、静的 IPv6 アドレスを入力できます。本機に IPv6 のアドレスを割り当てます。IPv6 アドレスのフォーマットは、2001:db8:3c4d:15::1a2c:1a1f のように、コロンで区切られた数字です。

[プレフィックス長]

IPv6 のプレフィックス長を入力します。0 - 128 の 10 進数で入力します。

[RA (Stateless)]

RA (Stateless) が [オン] に設定され、ネットワークインフラ側から IPv6 アドレスプレフィックスを RA 情報で提供される場合、IPv6 ステートレスアドレスがプリントシステムに割り当てられます。

[DHCPv6 (Stateful)]

DHCPv6 (Stateful) が [オン] に設定され、ネットワークインフラ側から "Managed address configuration" を提供される場合、DHCPv6 サーバーによって IPv6 ステートフルアドレス (128 ビット長) がプリントシステムに割り当てられます。

[ドメイン名]

本機が所属するドメイン名を指定します。[DHCPv6 (Stateful)] が [オフ] の場合に入力できます。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

**IPv6 設定 (共通)**

**1.** ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [TCP/IP] をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[デフォルトゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイの IPv6 アドレスを指定します。IPv4 設定 (有線ネットワーク) および IPv4 設定 (無線ネットワーク) の両方で [DHCP/BOOTP] が [オン] に設定され、動的 IPv4 アドレスがデバイスに割り当てられている場合にはグレーアウトしています。

[DNS サーバー (プライマリー、セカンダリー)]

プライマリーおよびセカンダリー DNS (ドメインネームシステム) サーバーの IP アドレスを指定します。[DHCPv6 (Stateful)] が [オン] の場合、[DHCP から DNS サーバーを使用] または [次の DNS サーバーを使用] を選択できます。[次の DNS サーバーを使用] を選択した場合、DNS サーバーの IP アドレスをプライマリーとセカンダリーに入力できます。

[DNS 検索サフィックス (プライマリー、セカンダリー)]

プライマリーおよびセカンダリー DNS (ドメインネームシステム) 検索サフィックスを設定します。[DHCPv6 (Stateful)] が [オン] の場合、[DHCP から DNS 検索サフィックスを使用] または [次の DNS 検索サフィックスを使用] を選択できます。[次の DNS 検索サフィックスを使用] を選択した場合、DNS 検索サフィックスをプライマリーとセカンダリーに入力できます。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

**Bonjour 設定**

**1.** ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [TCP/IP] をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[Bonjour]

[オン] または [オフ] を選択し、[利用可能ネットワーク] から、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。

[Bonjour 名]

[Bonjour] が [オン] の場合、Bonjour 名が表示されます。必要に応じて変更することもできます。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

**IP フィルター (IPv4)**

IP フィルターの設定を行います。IP フィルターとは、本機へのアクセスを IP アドレスやプロトコルによって制限する機能です。

許可するホストの IP アドレス、またはネットワークアドレスを指定します。IP フィルターの設定を行わない場合は、すべてのホストからのアクセスを許可します。

1. ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [TCP/IP] をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。
2. [設定/登録] ボタンをクリックします。[IP フィルター (IPv4)] ページが開きます。必要に応じて、フィルター 1 (~ 10) について次の設定をします。

[ネットワークインターフェイス]

オプションの無線 LAN 搭載時のみ、表示されます。

[IP アドレス (IPv4)]

アクセスを許可する IP アドレス、またはワークアドレスを指定します。

[サブネットマスク]

許可するサブネットマスクを指定します。エントリーがない場合は、すべてのアクセスは許可されます。

ネットワークへのアクセスを許可するには、ネットワークの IPv4 アドレス、およびサブネットマスクを入力します。

例：ネットワーク 192 上のすべてのホストにアクセスを許可する場合

IP アドレス       : 192.0.0.0

サブネットマスク : 255.0.0.0

サブネットマスクは、空欄でもかまいません。

サブネットマスクが空欄の場合は、255.255.255.255 と入力したときと同様です。

[プロトコル]

許可するプロトコルを指定します。選択できるプロトコルは、次のとおりです。

- LPD
- FTP
- IPP
- HTTP
- Raw
- SNMP

- IPP over SSL
- HTTPS
- NetBEUI
- Enhanced WSD
- Enhanced WSD (SSL)
- REST
- REST over SSL
- Privet ( ローカル印刷 )
- Bonjour
- WSD 印刷

3. [設定] ボタンをクリックします。

### IP フィルター (IPv6)

IP フィルターの設定を行います。IP フィルターとは、本機へのアクセスを IP アドレスやプロトコルによって制限する機能です。

許可するホストの IP アドレス、またはネットワークアドレスを指定します。IP フィルターの設定を行わない場合は、すべてのホストからのアクセスを許可します。

1. ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [TCP/IP] をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。
2. [設定 / 登録] ボタンをクリックします。[IP フィルター (IPv6)] ページが開きます。必要に応じて、フィルター 1 (~ 10) について次の設定をします。

[ネットワークインターフェイス]

オプションの無線 LAN 搭載時のみ、表示されます。

[IP アドレス (IPv6) ]

許可する IP アドレスを指定します。エントリーがない場合は、すべてのアクセスは許可されます。指定できるアドレスの数は、プレフィックス長の設定と IPv6 ネットワークアドレスに依存します。IPv6 アドレスのフィルタリング：プレフィックス長と希望する IPv6 アドレスを入力してください。

[プレフィックス長]

IPv6 のプレフィックス長を入力します。0 - 128 の 10 進数で入力します。

[プロトコル]

許可するプロトコルを指定します。選択できるプロトコルは、次のとおりです。

- LPD
- FTP
- IPP
- HTTP
- Raw
- SNMP
- IPP over SSL
- HTTPS
- NetBEUI
- Enhanced WSD
- Enhanced WSD (SSL)
- REST
- REST over SSL
- Privet ( ローカル印刷 )
- Bonjour
- WSD 印刷

3. [設定] ボタンをクリックします。

### ロジカルプリンター

ロジカルプリンターの設定を行います。ジョブデータの先頭や終端に文字列（命令）を追加または置き換える仮想プリンターとして、本機を使用することができます。ロジカルプリンターは4台まで設定可能です。

ロジカルプリンターは、FTP、LPR、IPP、IPPS、SMB(NetBEUI)、Raw のいずれかのプロトコルで使用します。印刷時にポートが指定されていない場合、ロジカルプリンタ 1 (LP1) ポート 9100 が自動的に使用されます。

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。
2. [設定/登録] ボタンをクリックします。[ロジカルプリンター] ページが開きます。必要に応じて、次の設定をします。

#### [TCP/IP ポート番号]

TCP の RAW ポート番号 (9100 など) と同様に、ロジカルプリンターにポート番号を指定します。指定されたロジカルプリンターに応じて、指定の RAW ポートに入力されたデータが変換されます。指定済みのポートと同じポート番号を指定した場合は、ポートの指定は無効です。

#### [双方向印刷]

TCP/IP ポートに印刷する際、双方向印刷を [オン] または [オフ] に設定できます。双方向印刷を [オフ] にすると、送信データは廃棄されます。

PostScript や PJI コマンドによる印刷の場合、プリンターから受信したデータをクライアントに返すためには、双方向印刷を [オン] にする必要があります。

#### [ジョブのはじめ]

出力ポート (lp ポート) に直接出力する前に、プリンターに送信する文字列を指定します。文字列指定は、印刷データを送出する前に制御コードを送信することが必要な場合に行います。

#### [ジョブの終わり]

出力ポート (lp ポート) に直接出力する前に、プリンターに送信する文字列を指定します。文字列指定は、印刷データが送出された後に制御コードを送信することが必要な場合に行います。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### IPSec 設定

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[TCP/IP]をクリックします。[TCP/IP 設定] ページが開きます。

IPSec プロトコルで通信を行う場合に、アクセスの制限を設定できます。

IPSec プロトコルを有効にするかどうかを設定します。使用する場合は、[オン] にします。使用しない場合は、[オフ] を選択します。

## 2. 必要に応じて、次の設定をします。

### [有効期限チェック]

有効にすると、通信時にサーバー証明書の有効期限を確認します。有効期限が切れている場合は、通信が失敗します。有効に設定されていない場合は、有効期限のチェックを行いません。

### [制限]

IPSec プロトコル以外のパケットに対するデフォルトのポリシーを選択します。IPSec ルールで設定したホスト、もしくは、ネットワーク以外とも通信を行う場合は、[許可]を選択します。上記のルールに設定したホスト、もしくはネットワークのみと通信を行う場合は、[禁止]を選択します。[許可]設定時、IPSec ルール設定で指定されたネットワーク以外からの通信も受け付けます。[禁止]設定時、IPSec ルール設定で指定されたネットワーク以外からの通信を受け付けません。

### [ルート証明]

証明書が有効かどうかを表示します。[ルート証明書 1 サブジェクト]～[ルート証明書 5 サブジェクト]まで 5 項目が表示されます。証明書の設定は [証明書] ページで行ってください。

### [IPSec ルール]

IPSec プロトコルで通信を行う場合に、使用するルールが有効かどうかを表示します。[ルール 1]～[ルール 10]まで 10 項目が表示されます。設定する場合、[設定/登録] ボタンをクリックして [IPSec ルール 1 (～10) 設定] ページで、次の設定を行ってください。

#### 1. [ポリシー]

[ルール]: IPSec 通信でのルールを使用するかどうか選択します。

[鍵管理方式]: ルールで使用する鍵の方式を [IKEv1]、[IKEv2] または [手動] を選択してください。

[カプセル化モード]: [トランスポート] は、あらかじめ暗号化したデータをカプセル化し、IP ヘッダを付けて送信します。送信ホスト、受信ホストが共に IPSec に対応している場合は最もシンプルな設定になります。[トンネル] は、途中に用意されたゲートウェイを利用します。送信ホストから発信された IP パケットをゲートウェイが受け取り、IP パケット全体を暗号化して IPSec でカプセル化して新たな IP ヘッダを付けて送信します。

#### 2. [IP アドレス]

[IP バージョン]: 接続先の IP バージョンを選択します。[IPv4] または [IPv6] を選択します。

[IP アドレス (IPv4)]: IPSec で接続するホスト、もしくはネットワークの IPv4 アドレスを入力してください。IPSec を適用する範囲を限定する場合は、確実に IP アドレスを指定してください。設定が空欄の場合は、すべての IPv4 アドレスを対象として扱います。

[サブネットマスク]: [IP バージョン] に [IPv4] を選択した場合、IPSec で接続するホスト、またはネットワークのサブネットマスクを入力してください。設定が空欄の場合は、ホストアドレスとして扱います。

[IP アドレス (IPv6)]: IPSec で接続するホスト、もしくはネットワークの IPv6 アドレスを入力してください。IPSec を適用する範囲を限定する場合は、確実に IP アドレスを指定してください。設定が空欄の場合は、すべての IPv6 アドレスを対象として扱います。

[プレフィックス長]: [IP バージョン] に [IPv6] を選択した場合は、IPSec で接続するホスト、またはネットワークのプレフィックス長を入力してください。設定が空欄の場合は、ホストアドレスとして扱います。

[リモートピアアドレス]: [カプセル化モード] で [トンネル] を選んだ場合、リモートコントロールする IP アドレスを指定します。

#### 3. [認証]: [鍵管理方式] で [IKEv1] を選んだ場合、ローカル側の認証を設定します。共有キーとなる文字列を設定して通信を行う場合は、[認証方式] から [事前共有キー] を選択し、下のテキストボックスに事前共有キーとなる文字列を入力します。CA 発行のデバイス証明書や、ルート証明書を使用する場合は、[証明書] を選択してください。[証明書] を選択した場合、デバイス証明書の有無が表示されます。設定する場合は、[設定/登録] ボタンをクリックして証明書を選択してください。デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。

[鍵管理方式] で [IKEv2] を選んだ場合、ローカル側とリモート側の認証を設定します。ロー

- カル側では、[ 認証方式 ]、[ ローカル ID タイプ ]、[ ローカル ID ]、[ デバイス証明書 ]、[ 事前共有キー ] をそれぞれ設定してください。[ リモート側 ] では、[ 認証方式 ]、[ リモート ID タイプ ]、[ リモート ID ]、[ 事前共有キー ] をそれぞれ設定してください。
4. [ 鍵交換 (IKE phase1) ] : IKE phase1 では、接続相手との間に ISAKMP SA を生成し、安全な通信を確立します。接続先に合わせて、次の項目を設定してください。  
 [ モード ] : [ ポリシー ] の [ 鍵管理方式 ] で [IKEv1] を選んだ場合に設定できます。[Main Mode] は、接続先と交換される情報量が多くなりますが、ID を保護できます。[Aggressive Mode] は、[Main Mode] より接続先と交換される情報量は少なくすみませんが、ID の保護や、パラメーターのネゴシエーションの範囲に制限があります。[Aggressive Mode] を選択し、さらに [ 認証方式 ] で [ 事前共有キー ] を選択した場合は、ルール設定の IP アドレスの指定には、ホストアドレスのみ設定できます。  
 [Hash] : Hash アルゴリズムを選択します。  
 [ 暗号化 ] : 暗号化アルゴリズムを選択します。  
 [Diffie-Hellman グループ] : Diffie-Hellman 鍵共有アルゴリズムによって、保護されていないネットワークにある 2 つのホスト間において、安全に秘密鍵を共有することができます。使用する Diffie-Hellman グループを選択します。  
 [ 有効期間 (時間) ] : ISAKMP SA の有効期間を、秒単位で設定します。
  5. [ データ保護 (IKE phase2) ] : IKE phase2 では、IKE phase1 によって確立された SA を使用して、AH や ESP などの IPSec SA を確立します。接続先に合わせて、次の項目を設定してください。  
 [ プロトコル ] : プロトコルを、[ESP] または [AH] から選択します。[ESP] はパケット内容のプライバシーと完全性が守られます。次の項目で、Hash と暗号化アルゴリズムを選択します。[AH] は、暗号化チェックサムによってパケット内容の完全性が保護されます。[AH] を選択すると、AES-GCM-128/192/256 は使用できません。次項目で、Hash アルゴリズムを選択します。  
 [Hash] : Hash アルゴリズムを選択します。[ 暗号化 ] で AES-GCM-128/192/256 のいずれかを選択した場合、Hash にも同ビットの AES-GCM-128/192/256 または AES-GMAC-128/192/256 を選択する必要があります。  
 [ 暗号化 ] : 暗号化アルゴリズムを選択します。( [ プロトコル ] で [ESP] 選択時のみ。)  
 [Hash] で AES-GCM-128/192/256 を選択した場合、暗号化にも同ビットの AES-GCM を選択する必要があります。暗号化アルゴリズムを選択しない場合は、暗号化を行わずに認証を行います。  
 [PFS] : [PFS] を [ オン ] にすることにより、ある鍵が解読されてもその解読された鍵から後に生成された鍵を解読できないようにします。これにより安全性が高まりますが、鍵の生成プロセスが増えます。  
 [Diffie-Hellman グループ] : [PFS] を [ オン ] にした場合、使用する Diffie-Hellman グループを選択します。  
 [ 有効期間測定 ] : [ 時刻 ] または [ 時間およびデータサイズ ] を選択してください。  
 [ 有効期間 (時間) ] : IPSec SA の有効期間を、秒単位で設定します。  
 [ 有効期間 (データサイズ) ] : 有効期間測定で [ 時間およびデータサイズ ] を選択した場合に設定できます。IPSec SA の有効期間中のデータサイズを、KB 単位で設定します。  
 [ 拡張シーケンス番号 ] : IPSec でシーケンス番号の拡張 (64 ビット化) をするかどうか設定します。設定する場合、[ オン ] を選択してください。
  6. [ 手動鍵設定 ] : [ ポリシー ] の [ 鍵管理方式 ] で [ 手動 ] を選んだ場合、[ プロトコル ]、[ Hash ]、[ 暗号化 ]、[ SPI フォーマット ]、[ インバウンド SPI ]、[ アウトバウンド SPI ]、[ 鍵フォーマット ]、[ インバウンド 認証鍵 ]、[ アウトバウンド 認証鍵 ]、[ インバウンド暗号鍵 ]、[ アウトバウンド暗号鍵 ]、をそれぞれ設定してください。

[ 設定 ] ボタンをクリックして確定してください。

### 3. [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## プロトコル

このセクションでは、通信手順または通信規約であるプロトコルの詳細設定を行います。

\* : このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [ リセット ] のページで行ってください。

1. ナビゲーションメニューの[ネットワーク設定]をクリックし、下に表示される[プロトコル]をクリックします。[プロトコル設定]ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

[印刷プロトコル]

印刷時のプロトコルを設定します。次の設定をしてください。

1. [NetBEUI]：NetBEUI プロトコルを使用して、ピアツーピア環境での印刷が可能です。この場合、本機は Windows のマイネットワークに登録されます。NetBEUI は SMB プロトコルの転送に使用される、NetBIOS プロトコルを拡張したものです。  
NetBEUI プロトコルを有効または無効に設定します。NetBEUI が [オン] の場合は、NetBIOS (NMB) による名前解決が利用できます。  
[利用可能ネットワーク]：NetBEUI プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。  
[ワークグループ]：ワークグループは、"Windows Network Neighborhood" の [ネットワーク全体] に表示されるワークグループを表します。  
[説明]：本機の説明を入力します。(この欄は、空欄でもかまいません。)
2. [LPD]：LPD プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：LPD プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
3. [FTP (受信)]：FTP は、ネットワークでファイルの転送を行うための通信プロトコルです。FTP プロトコルで受信を有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：FTP プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
4. [IPP]：IPP は、インターネットなどの TCP/IP ネットワークを通じて印刷データの送受信や印刷機器の制御を行うプロトコルです。IPP プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：IPP プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。  
[ポート番号]：ポート番号を入力してください。通常は 631 です。
5. [IPP over SSL]：IPP プロトコルでの通信で、証明書を付加することができます。IPP over SSL を有効にするには [オン] に設定します。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ設定] ページで SSL の設定を [オン] にしてください。  
[利用可能ネットワーク]：IPP over SSL を利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。  
[ポート番号]：ポート番号を入力してください。通常は 443 です。  
[IPP over SSL 証明書]：IPP over SSL 証明書の状況が表示されます。設定する場合は、[設定 / 登録] ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。[設定] ボタンをクリックすると、設定が確定されます。  
デバイス証明書の設定は [セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。この証明書は IPP over SSL と HTTPS、共通で使用されます。
6. [IPP 認証]：IPP 認証を [オン] に設定すると、印刷時にユーザー認証を行い、第三者による不正使用を防止できます。この設定を使用する場合は、[管理設定] の [認証設定] ページで認証の設定を [ネットワーク認証] にしてください。[IPP 認証] の [オン] を選択し、[デフォルトユーザー名] を入力してください。
7. [Raw]：Raw プロトコルは、LPR とは異なる手順で印刷する方法です。一般にポート番号として 9100 を使い、SNMP や MIB などを使ってプリンターを制御します。Raw プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：Raw プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
8. [WSD 印刷]：WSD は Windows Vista において新たなネットワーク接続を実現するプロトコルであり、プリンターデバイスの検知 (インストール) やデータ送受信がより容易に使用できます。WSD プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：WSD プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
9. [POP3 (メール受信)]：POP3 は、電子メールを取得するための標準プロトコルです。POP3 プロトコルは、POP3 電子メールクライアントと電子メールが保存されているサーバーの間の接続を制御します。POP3 プロトコルでメール受信を有効にするには [オン] に設定します。詳細設定は [機能設定] の [メール設定] ページで行ってください。

[POP3 セキュリティー (ユーザー 1 (~3))] の方式をドロップダウンリストの [オフ]、[STARTTLS] または [SSL/TLS] より選択してください。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ設定] ページで SSL の設定をオンにしてください。

#### [送信プロトコル]

送信時のプロトコルを設定します。次の設定をしてください。

1. [SMTP (メール送信)] : SMTP とは簡易メール転送プロトコルのことで、電子メールを送送するプロトコルです。SMTP プロトコルでメール送信を有効にするには [オン] に設定します。詳細設定は、[機能設定] の [メール設定] ページで行ってください。  
[SMTP セキュリティー] の方式をドロップダウンリストの [STARTTLS]、[SSL/TLS] または [オフ] より選択してください。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ] ページで SSL の設定を [オン] にしてください。

#### [その他プロトコル]

その他のネットワークプロトコルを設定します。次の設定をしてください。

1. [SNMPv1/v2c] : SNMP プロトコルは、ネットワーク内の管理情報の通信に使用されます。用紙切れなどのエラーが発生した場合、本機は自動的にトラップの生成を行い、指定されたトラップ受信者にエラーメッセージを送信します。SNMPv1/v2c プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。詳細設定は、[管理設定] の [SNMP 設定] ページで行ってください。  
[利用可能ネットワーク] : SNMP プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
2. [SNMPv3] : SNMP プロトコルは、ネットワーク内の管理情報の通信に使用されます。SNMPv3 プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。詳細設定は、[管理設定] の [SNMP 設定] ページで行ってください。
3. [HTTP] : HTTP プロトコルは、WWW サーバーとブラウザの間で、ウェブページのデータを送受信する際のプロトコルです。HTTP プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク] : HTTP プロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
4. [HTTPS] : HTTPS プロトコルは、SSL や TLS で暗号化するプロトコルです。Web サーバーと Web ブラウザーの間の通信が暗号化されていることを意味します。HTTPS プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ設定] ページで SSL の設定を [オン] にしてください。[HTTPS 証明書] で証明書の状況が表示されます。設定する場合は、[設定 / 登録] ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。[設定] ボタンをクリックすると、設定が確定されます。  
デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。この証明書は IPP over SSL と HTTPS 共通で使用されます。
5. [Enhanced WSD] : Enhanced WSD は、ネットワークに接続したさまざまなデバイスを簡単に つないで利用するための手続きを規定します。Enhanced WSD プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。  
[利用可能ネットワーク] : Enhanced WSD を利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。
6. [Enhanced WSD (SSL)] : Enhanced WSD (SSL) は、Enhanced WSD で SSL を使用したセキュリティプロトコルであり、暗号化、認証、完全性 (改ざん防止) を提供します。Enhanced WSD (SSL) プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ設定] ページで SSL の設定を [オン] にしてください。  
[利用可能ネットワーク] : Enhanced WSD (SSL) を利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct] を選択します。  
[Enhanced WSD over SSL 証明書] : Enhanced WSD over SSL 証明書の状況が表示されます。設定する場合は、[設定 / 登録] ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。[設定] ボタンをクリックすると、設定が確定されます。  
デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。
7. [LDAP] : ディレクトリサービスにアクセスするために使用されるプロトコルです。LDAP プロトコルを有効にするには [オン] に設定します。認証の詳細設定は、[管理設定] の [認証設定] で行ってください。  
[ネットワーク認証] のドロップダウンリストで [STARTTLS]、[SSL/TLS] または [オフ] よ

り選択してください。この設定を使用する場合は、[セキュリティ設定]の[ネットワークセキュリティ]ページでSSLの設定を[オン]にしてください。

8. [IEEE802.1X]：IEEE802.1Xのセキュリティープロトコルにより、クライアント証明書に基づいて安全なネットワークへログインできます。IEEE802.1Xプロトコルを有効にするには[オン]に設定します。  
IEEE802.1Xを設定する場合、[設定/登録]ボタンをクリックします。[IEEE802.1X設定]ページで状況が表示されます。次の設定をしてください。

#### IEEE802.1X

[有効な暗号方式]：暗号方式をドロップダウンリストの[EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST]または[PEAP(EAP-MS-CHAPv2)]より選択してください。

[トンネル内認証プロトコル]：[有効な暗号方式]で、[EAP-TTLS]を指定した場合に設定します。認証方式をドロップダウンリストの[MSCHAPV2]、[MSCHAP]、[CHAP]または[PAP]より選択してください。

[ログインユーザー名]：アクセスするユーザー名を入力します。IEEE802.1Xクライアント証明書が有効であることが必要です。

[パスワード]：[有効な暗号方式]で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST]または[PEAP(EAP-MS-CHAPv2)]を指定した場合に設定します。パスワードを入力してください。

[一般名]：暗号方式で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST]または[PEAP(EAP-MS-CHAPv2)]を指定した場合に設定します。サーバーの確認が必要な場合、サーバーの証明書の一般名を指定します。

[一般名の一致規則]：暗号方式で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST]または[PEAP(EAP-MS-CHAPv2)]を指定した場合に設定します。サーバー証明書の確認を行う際、[一般名]で指定した名称とサーバー証明書内の一般名を比較します。このときに、[完全一致]が必要か、または[部分一致]で良いかを選択します。

[有効期限チェック]：[オン]にすると、通信時にサーバー証明書の有効期限を確認します。有効期限が切れている場合は、通信が失敗します。有効に設定されていない場合は、有効期限のチェックを行いません。

[IEEE802.1Xクライアント証明書]：[IEEE802.1Xクライアント証明書]で証明書の状況が表示されます。設定する場合は、[設定/登録]ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。[設定]ボタンをクリックすると、設定が確定されます。デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定]の[証明書]ページで行ってください。

#### 証明書の状態

[ルート証明書1(～5)]、[IEEE802.1Xクライアント証明書]：証明書の状況が一覧表示されます。ルート証明書の設定は、[セキュリティ設定]の[証明書]ページで行ってください。

9. [LLTD]：LLTDは、ネットワーク構成を検出し、サービス品質の診断を行うプロトコルです。LLTDプロトコルを有効にするには[オン]に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：LLTDプロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct]を選択します。
10. [REST]：RESTは、分散システムにおいて複数のソフトウェアを連携させるのに適したウェブアプリケーションのアーキテクチャです。RESTプロトコルを有効にするには[オン]に設定します。  
[利用可能ネットワーク]：RESTプロトコルを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct]を選択します。  
[ポート番号]：ポート番号を入力してください。通常は9080です。
11. [REST over SSL]：RESTプロトコルでの通信で、証明書を付加することができます。REST over SSLを有効にするには[オン]に設定します。この設定を使用する場合は、[ネットワークセキュリティ設定]ページでSSLの設定を[オン]にしてください。  
[利用可能ネットワーク]：REST over SSLを利用できるネットワークとして、[有線]、[Wi-Fi]、[Wi-Fi Direct]を選択します。  
[ポート番号]：ポート番号を入力してください。通常は9081です。  
[REST over SSL証明書]：REST over SSL証明書状況が表示されます。設定する場合は、[設定/登録]ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。

### 3. [設定]ボタンをクリックします。

## 無線 LAN

このセクションでは、Wi-Fi および Wi-Fi Direct の詳細設定を行います。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [リセット] のページで行ってください。

### Wi-Fi 設定

1. ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [無線 LAN] をクリックします。[無線 LAN 設定] ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

[Wi-Fi]

Wi-Fi を使用した無線 LAN 通信を行う場合は [オン] に設定します。

[ネットワーク名 (SSID)]

デバイスを接続する無線 LAN の SSID (Service Set Identifier) を入力します。

[ネットワーク認証]

ドロップダウンリストより、ネットワーク認証の方式を選択します。

[暗号化]

暗号化方式を設定します。[ネットワーク認証] で [Open] を選択した場合、[無効にする] または [WEP] を選択してください。

[ネットワーク認証] で [WPA2/WPA-PSK] または [WPA2/WPA-EAP] を選択した場合、[AES] または [自動] を選択してください。

[ネットワーク認証] で [WPA2-PSK] または [WPA2-EAP] を選択した場合、[暗号化] は [AES] に設定されます。

[WEP キーインデックス]

[ネットワーク認証] で [Open]、[暗号化] で [WEP] を選択した場合は、WEP キーインデックスを入力してください。

[WEP キー]

[ネットワーク認証] で [Open]、[暗号化] で [WEP] を選択した場合は、WEP キーを入力してください。

[事前共有キー]

[ネットワーク認証] で [WPA2/WPA-PSK] または [WPA2-PSK] を選択した場合は、事前共有キーを入力してください。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### IEEE802.1X

この設定は、[Wi-Fi 設定] の [ネットワーク認証] で [WPA2/WPA-EAP] または [WPA2-EAP] を選択した場合に表示されます。

1. ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [無線 LAN] をクリックします。[無線 LAN 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[有効な暗号方式]

暗号方式をドロップダウンリストの [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST] または [PEAP(EAP-MS-CHAPv2)] より選択してください。

[トンネル内認証プロトコル]

[有効な暗号方式] で、[EAP-TTLS] を指定した場合に設定します。認証方式をドロップダウンリストの [MSCHAPV2]、[MSCHAP]、[CHAP] または [PAP] より選択してください。

[ログインユーザー名]

アクセスするユーザー名を入力します。IEEE802.1X クライアント証明書が有効であることが必要です。

[パスワード]

[有効な暗号方式] で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST] または [PEAP(EAP-MS-CHAPv2)] を指定した場合に設定します。パスワードを入力してください。

[一般名]

暗号方式で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST] または [PEAP(EAP-MS-CHAPv2)] を指定した場合に設定します。サーバーの確認が必要な場合、サーバーの証明書の一般名を指定します。

[一般名の一致規則]

暗号方式で、[EAP-TTLS]、[EAP-FAST] または [PEAP(EAP-MS-CHAPv2)] を指定した場合に設定します。サーバー証明書の確認を行う際、[一般名] で指定した名称とサーバー証明書内の一般名を比較します。このときに、[完全一致] が必要か、または [部分一致] で良いかを選択します。

[有効期限チェック]

[オン] にすると、通信時にサーバー証明書の有効期限を確認します。有効期限が切れている場合は、通信が失敗します。有効に設定されていない場合は、有効期限のチェックを行いません。

[IEEE802.1X クライアント証明書]

[IEEE802.1X クライアント証明書] で証明書の状況が表示されます。設定する場合は、[設定/登録] ボタンをクリックし、デバイス証明書を選択してください。[設定] ボタンをクリックすると、設定が確定されます。デバイス証明書の設定は、[セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。

**3.** [設定] ボタンをクリックします。

**証明書の状態**

**1.** ナビゲーションメニューの [ネットワーク設定] をクリックし、下に表示される [無線 LAN] をクリックします。[無線 LAN 設定] ページが開きます。

**2.** 必要に応じて、次の設定をします。

[ルート証明書 1 (~ 5)]、[IEEE802.1X クライアント証明書]

証明書の状況が一覧表示されます。ルート証明書の設定は、[セキュリティ設定] の [証明書] ページで行ってください。

## Wi-Fi Direct 設定

1. ナビゲーションメニューの [ ネットワーク設定 ] をクリックし、下に表示される [ 無線 LAN ] をクリックします。 [ 無線 LAN 設定 ] ページが開きます。

2. 必要に応じて、次の設定をします。

[Wi-Fi Direct]

Wi-Fi Direct を使用した無線 LAN 通信を行う場合は [ オン ] に設定します。

[ デバイス名 ]

デバイス名を入力します。

[IP アドレス]

本機の IP アドレスが表示されます。

[Persistent グループ]

Persistent グループを使用する場合は [ オン ] に設定します。

[リセット] ボタンをクリックすると、Wi-Fi Direct 接続用のパスワードがリセットされます。

---

参考：パスワードは、ナビゲーションメニューの [ デバイス情報 ] をクリックし、その下に表示される [ 構成 ] をクリックして表示される [ 構成 ] ページから確認できます。また、操作パネルおよびネットワークステータスページからも確認できます。

---

[ 自動切断 ]

Wi-Fi Direct で接続された機器を自動的に切断する場合は、[ オン ] に設定します。自動切断の日、時、分をドロップダウンリストから選択してください。

3. [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## 8 セキュリティ設定

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した際に表示されます。

必要に応じて次の設定をしてください。詳細は下記を参照してください。

- デバイスセキュリティ
- ネットワークセキュリティ
- 証明書

### デバイスセキュリティ

このセクションではデバイスのセキュリティ設定を行います。

#### インターフェイスブロック

インターフェイスごとにアクセスをブロック（制限）できます。

1. ナビゲーションメニューの [セキュリティ設定] をクリックし、下に表示される [デバイスセキュリティ] をクリックします。 [デバイスセキュリティ設定] ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

[ネットワーク]

ネットワークインターフェイスからのアクセスは、制限できません。プロトコルごとにアクセスを制限することが可能です。詳細は、[ネットワーク設定] の [プロトコル設定] ページを参照してください。

[USB デバイス]

USB ポートに接続するデバイス機器をブロックする場合、[ブロックする] を選択します。

[USB ホスト]

USB ホスト機器をブロックする場合、[ブロックする] を選択します。

[USB ドライブ]

USB ポートに接続する記憶装置をブロックする場合、[ブロックする] を選択します。

[パラレルインターフェイス]

パラレルインターフェイスをブロックする場合、[ブロックする] を選択します。

[オプションインターフェイス]

オプションインターフェイスをブロックする場合、[ブロックする] を選択します。

3. [設定] ボタンをクリックします。

#### 操作パネルロック

操作パネルからのアクセスを制限します。

1. ナビゲーションメニューの [セキュリティ設定] をクリックし、下に表示される [デバイスセキュリティ] をクリックします。 [デバイスセキュリティ設定] ページが開きます。

2. [操作パネルロック]で、ドロップダウンリストの[オン]、[部分ロック 1]、[部分ロック 2]、[部分ロック 3]または[オフ]を選択します。

[オン]

入出力、ジョブの実行および用紙に関連する設定が禁止されます。部分的に制限する場合、下記の[部分ロック 1 (~ 3)]を使用してください。

[部分ロック 1]

ネットワーク設定、システム設定、文書ボックス設定などの入出力に関連する設定が禁止されます。

[部分ロック 2]

[部分ロック 1]の制限に加え、パネル設定、プリンター設定などのジョブの実行に関連する設定が禁止されます。

[部分ロック 3]

[部分ロック 2]の制限に加え、用紙に関連する設定が禁止されます。

[オフ]

すべてのキーが使用できます。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### 状況 / 履歴の表示

ジョブ状況、ジョブ履歴が制限できます。

1. ナビゲーションメニューの[セキュリティ設定]をクリックし、下に表示される[デバイスセキュリティ]をクリックします。[デバイスセキュリティ設定]ページが開きます。

2. 必要に応じて、次の設定をします。

[ジョブ状況の詳細の表示]

ジョブの進行状況（詳細）の制限が可能です。[表示しない]選択時は、管理者権限でログインした場合のみジョブ状況を表示します。[すべて表示]選択時は、権限に関わらずすべてのジョブ状況を表示します。[自分のジョブのみ]選択時は、自身のジョブ状況のみを表示します。

[ジョブ履歴の表示]

ジョブの履歴の制限が可能です。[表示しない]選択時は、管理者権限でログインした場合のみジョブ履歴を表示します。[すべて表示]選択時は、権限に関わらずすべてのジョブ履歴を表示します。[自分のジョブのみ]選択時は、自身のジョブ履歴のみを表示します。

3. [設定] ボタンをクリックします。

### セキュリティデータの完全消去

本機に登録されているセキュリティデータを、工場出荷時に戻します。

1. ナビゲーションメニューの[セキュリティ設定]をクリックし、下に表示される[デバイスセキュリティ]をクリックします。[デバイスセキュリティ設定]ページが開きます。

2. 必要に応じて、次の設定をします。

[ タイマー予約 ]

指定された時刻に本機内の IP アドレスなどの設定データを完全に消去します。  
[ オン ] を選択した場合は、完全消去を実行する日時を設定してください。

[ 実行後の機器使用 ]

セキュリティデータの消去後の本機に、使用制限を行います。[ 許可する ] または [ 禁止する ] を選択してください。[ 禁止する ] を選択すると、本機の操作ができなくなります。

3. [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## ネットワークセキュリティ

このセクションでは、ネットワークのセキュリティ設定を行います。

\* : このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [ リセット ] のページで行ってください。

### ネットワークセキュリティ設定

1. ナビゲーションメニューの [ セキュリティ設定 ] をクリックし、下に表示される [ ネットワークセキュリティ ] をクリックします。[ ネットワークセキュリティ設定 ] ページが開きます。

2. 必要に応じて、次の設定をします。

[ SSL ]

SSL プロトコルは、暗号機能を使用して、PC と本体間の通信を暗号化することができます。設定する場合、[ オン ] にしてください。[ オフ ] にすると、SSL 通信が無効になります。

[ サーバー機能時の設定 ]

サーバー側のセキュリティ設定をします。次の設定をしてください。

- [ TLS バージョン ] : TLS プロトコルは、情報を暗号化して送受信するプロトコルの一つです。使用するバージョンを [ SSL3.0/TLS1.0 ]、[ TLS1.1 ] および [ TLS1.2 ] から選択してください。(複数選択が可能です。)
- [ 有効な暗号方式 ] : 使用する暗号アルゴリズムを、[ ARCFOUR ]、[ DES ]、[ 3DES ]、[ AES ] および [ AES-GCM ] から選択してください。(複数選択が可能です。)
- [ Hash ] : Hash アルゴリズムを、[ SHA1 ] および [ SHA2(256/384) ] から選択してください。(複数選択が可能です。)
- [ HTTP セキュリティ ] : HTTP 使用時のセキュリティレベルを指定します。  
[ セキュア (HTTPS) ] : HTTP プロトコルでのすべての通信を暗号化します。https:// ではじまる URL のみがアクセス可能です。http:// ではじまる URL が指定された場合、自動的に https:// へリダイレクトされます。  
[ 非セキュア (HTTPS と HTTP) ] : HTTP プロトコルでの暗号通信と、非暗号通信の両方をアクセス可能にします。https:// と http:// いずれの URL でもアクセスできます。前者の場合は暗号通信、後者は通常通信となります。
- [ IPP セキュリティ ] : IPP 使用時のセキュリティレベルを指定します。  
[ セキュア (IPPS) ] : HTTP プロトコルでのすべての通信を暗号化します。  
[ 非セキュア (IPPS と IPP) ] : IPP プロトコルでの暗号通信と、非暗号通信の両方をアクセス可能にします。
- [ Enhanced WSD セキュリティ ] : Enhanced WSD 使用時のセキュリティレベルを指定します。  
[ セキュア (Enhanced WSD over SSL) ] : Enhanced WSD over SSL プロトコルでのすべての通信を暗号化します。  
[ 非セキュア (Enhanced WSD over SSL と Enhanced WSD) ] : Enhanced WSD over SSL プロトコルでの通信と、Enhanced WSD プロトコルでの通信の両方をアクセス可能にします。

7. [REST セキュリティー]：REST 使用時のセキュリティレベルを指定します。  
[セキュア (REST over SSL)]：REST over SSL プロトコルでのすべての通信を暗号化します。  
[非セキュア (REST over SSL と REST)]：REST over SSL プロトコルでの通信と、REST プロトコルでの通信の両方をアクセス可能にします。

### [クライアント機能時の設定]

クライアント (PC) 側のセキュリティ設定をします。次の設定をしてください。

1. [TLS バージョン]：TLS プロトコルは、情報を暗号化して送受信するプロトコルの一つです。使用するバージョンを [SSL3.0/TLS1.0]、[TLS1.1] および [TLS1.2] から選択してください。(複数選択が可能です。)
2. [有効な暗号方式]：使用する暗号アルゴリズムを、[ARCFOUR]、[DES]、[3DES]、[AES] および [AES-GCM] から選択してください。(複数選択が可能です。)  
複数選択した場合、いずれかの暗号方式で自動で接続します。
3. [Hash]：Hash アルゴリズムを、[SHA1] および [SHA2(256/384)] から選択してください。(複数選択が可能です。)
4. [証明書チェック]：[有効期限]を[オン]に設定すると、通信時にサーバー証明書に設定されている有効期限をチェックします。有効期限が切れている場合には、通信が失敗します。有効期限のチェックを行わない場合は、[オフ]を設定します。

### 3. [設定] ボタンをクリックします。

## ネットワークアクセス設定

1. ナビゲーションメニューの[セキュリティ設定]をクリックし、下に表示される[ネットワークセキュリティ]をクリックします。[ネットワークセキュリティ設定]ページが開きます。
2. 必要に応じて、次の設定をします。

### [フィルタリング/ファイアウォール]

デバイスのネットワークアクセスを制御し、特定のネットワークアドレスのみを許可することができます。

### [SNMPv1/v2c]

SNMP のリードコミュニティ名とライトコミュニティ名は、SNMP 経由でのデバイス情報取得と設定を制御するパスワードとして使用します。

### [SNMPv3]

SNMPv3 の通信設定は、SNMP 経由での認証 / 暗号化通信を制御するために使用します。詳細は、[管理設定]の[SNMP 設定]ページを参照してください。

### [SSL]

SSL 通信を使用するためにはセキュアプロトコルの設定を行う必要があります。

### [IEEE802.1X]

IEEE802.1X を使用するためには、IEEE802.1X の設定を行う必要があります。

### [IPSec]

IPSec 通信を使用するためには、IPSec の設定を行う必要があります。

### 3. [設定] ボタンをクリックします。

## 証明書

このセクションでは、証明書の詳細を確認、作成、更新することができます。これらの設定内容を変更した場合は、ネットワークまたは本体をリセット（再起動）する必要があります。

エンベデッドサーバーに https で接続したとき、Web サイトのセキュリティ証明書を認証するかどうかの画面が表示されることがあります。その場合、次のいずれかの方法で証明書を設定することで対処できます。

- 一時的な対策：エンベデッドサーバーのホームページに最初にアクセスするときに表示される警告メッセージを操作者がそのつど許可（認証）する。
- 恒久的な対策：エンベデッドサーバーでエクスポートしたデバイス証明書またはルート証明書を、信頼された証明書としてクライアント PC にインポートする。その後アクセス時にブラウザが証明書を使って自動的に認証を行うことで、事前に警告メッセージを解除する。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [リセット] のページで行ってください。

### デバイス証明書

1. ナビゲーションメニューの [セキュリティ設定] をクリックし、下に表示される [証明書] をクリックします。[証明書] ページが開きます。
2. デバイス証明書が一覧表示され、次の確認ができます。[デバイス証明書 1] は、初期設定で自動的に発行されています。自動発行された証明書には、国別コードと一般名、および 10 年の有効期限が設定されています。

[状態]

証明書が有効かどうか表示します。

[サブジェクト]

国別コードと一般名が表示されます。

[有効期限]

証明書の有効期限を表示します。

[プロトコル]

使用するプロトコルの種類が表示されます。(HTTPS/IP over SSL、Enhanced WSD (SSL)、REST over SSL、その他プロトコル)

3. 必要に応じて、次の設定をします。

[デバイス証明書 1 (~ 5)]

初期設定の変更、新規作成の設定 / 登録、および削除ができます。

[デバイス証明書 1 (~ 5)] の [設定 / 登録] ボタンをクリックします。[デバイス証明書 1 (~ 5) 設定] ページが開き、現在の状況が表示されます。次の確認および設定ができます。

- [状態]：証明書が有効かどうか表示します。
- [有効期限]：証明書の有効期限を表示します。
- [証明書の詳細]：[表示] ボタンをクリックすると、証明書の詳細内容を見ることが出来ます。
- [自己発行証明書を作成する]：[作成] ボタンをクリックすると、[証明書に必要なデータの編集] ページが開きます。設定する情報を入力または設定してください。[国コード]、[都道府県名]、[市区町村名]、[組織名]、[部門名]、[一般名]、[メールアドレス]、[標準時 (UTC/GMT)]、[有効期限]、[鍵長] は自動的に表示されます。[鍵長] は暗号の計算に用いる暗号鍵のデータ量のこと、[1024 bit] または [2048 bit] より選択してください。[設定] ボタンをクリックして、内容を確定してください。

- [ 証明書を更新する ]: [ 更新 ] ボタンをクリックすると、[ 有効期限設定 ] ページが開きます。有効期限を入力してください。[ 標準時 (UTC/GMT) ] は自動的に表示されます。[ 設定 ] ボタンをクリックして、内容を確定してください。
- [ 証明書の削除 ]: [ 削除 ] ボタンをクリックすると、証明書が表示されます。内容を削除してください。
- [ 証明書をエクスポートする ]: [ エクスポート ] ボタンをクリックすると、ファイルのダウンロード画面が表示されます。内容を保存してください。

### [ ルート証明書 1 (～ 5) ]

新規で作成し、設定 / 登録、および削除ができます。

1. [ ルート証明書 1 (～ 5) ] の [ 設定 / 登録 ] ボタンをクリックします。[ ルート証明書 1 (～ 5) 設定 ] ページが開き、現在の状況が表示されます。次の確認および設定ができます。
  - [ 状態 ]: 証明書が有効かどうか表示します。
  - [ 有効期限 ]: 証明書の有効期限を表示します。
  - [ 証明書のインポート ]: [ インポート ] ボタンをクリックすると、[ ファイルのインポート ] ページが開きます。[ ファイルの選択 ] ボタンをクリックしてインポートするファイルを選択してください。[ 設定 ] ボタンをクリックして、内容を確定してください。
2. [ ルート証明書 2 (～ 5) ] を削除するには、[ ルート証明書 2 (～ 5) ] の [ 削除 ] ボタンをクリックします。

---

**参考：証明書は、個別に各プロトコルまたは各設定に割り当てることができます。**

---

## 9 管理設定

このページは、管理者権限でログイン（アクセス）した際に表示されます。

必要に応じて次の設定をしてください。詳細は下記を参照してください。

- 部門管理
- 認証
- 通知 / レポート
- 履歴設定
- SNMP
- リセット

### 部門管理

このセクションでは部門管理の詳細設定を行います。

#### 設定 / 登録

部門管理を使用するためには、部門管理設定を設定する必要があります。

1. ナビゲーションメニューの[管理設定]をクリックし、下に表示される[部門管理]をクリックします。[設定 / 登録]ページが開きます。
2. [設定 / 登録] ボタンをクリックします。[部門管理設定]ページが開きます。必要に応じて、次の設定をします。

[部門管理]

部門管理機能を使用する場合、[オン]を選択します。

[部門管理方式]

ネットワーク認証を介して部門管理をする場合、[ネットワーク]を選択します。

[動作設定]

次の設定をしてください。

1. 制限超過時設定：制限枚数に達したときの処理を、[即時禁止]、[次ジョブから禁止]から選択します。
  2. ID 不明ジョブ処理：[部門管理]または[ネットワーク認証]を[オン]に設定した場合に表示されます。部門コードが不明な（部門コードが送られてこない）ジョブが届いた場合の処理方法が表示されます。
3. 手順2の[部門管理]で[オン]を選択した場合、[カウンター制限初期値]が表示されます。
  4. [カウンター制限初期値]の設定をします。各カウンターの制限初期値を1～9999999の範囲で入力してください。
  5. [設定] ボタンをクリックします。

#### ローカル部門管理リスト

このセクションでは、部門の追加、削除、および部門集計の設定を行います。

### 部門追加

部門ごとまたは全部門の集計をするためには、部門を追加する必要があります。

1. [部門追加] アイコンをクリックします。[新規部門 - 詳細情報] ページが開きます。
2. [部門詳細情報] の設定をします。次の設定をしてください。  
[部門 ID]  
部門 ID を入力します。
3. [制限] の設定をします。  
[プリンター印刷制限 (合計)] を、[制限しない]、[カウンター制限]、[使用禁止] から選択します。  
[カウンター制限] を選択した場合、制限値を 1 ~ 9999999 の範囲で入力します。
4. [設定] ボタンをクリックします。

### 削除

1. 部門 ID 左隣にあるチェックボックスをクリックします。複数選択する場合は、[すべてチェック] アイコンをクリックします。
2. [削除] アイコンをクリックします。

### カウンター

1. [カウンター] ボタンをクリックします。選択した部門または [その他部門]、[全部門集計] の集計結果が表示されます。
2. 集計結果を確認します。  
[印刷ページ数]  
ドロップダウンリストより、目的に応じて [機能別印刷ページ数]、[レイアウト別印刷ページ数] を選択します。  
[カウンターリセット]  
[リセット] ボタンをクリックして、部門のカウンターをリセットします。

## 認証

このセクションでは認証の詳細設定を行います。

### 設定 / 登録

認証を使用するためには、認証設定を設定する必要があります。

1. ナビゲーションメニューの [管理設定] をクリックし、下に表示される [認証] をクリックします。[設定 / 登録] ページが開きます。
2. [設定 / 登録] ボタンをクリックします。[認証設定] ページが開きます。必要に応じて、次の設定をします。  
[基本]  
[認証] : ドロップダウンリストより [オフ]、または [ネットワーク認証] を選択します。
3. 手順 2 の [基本] で [ネットワーク認証] を選択した場合、次の設定をします。

1. ネットワーク認証サーバーを設定します。  
ホスト名：ネットワーク認証サーバーのホスト名または IP アドレスを入力してください。  
ホスト名を使用する場合は、あらかじめ DNS サーバーを設定する必要があります。  
ポート番号：ネットワーク認証サーバーのポート番号を入力してください。  
サーバータイプ：ドロップダウンリストからサーバータイプを選択してください。  
初期ドメイン：[ドメインリスト] ボタンをクリックして表示されるリストで、ドメイン名を入力し、[設定] ボタンをクリックしてください。複数入力した場合は、ドロップダウンリストから選択できるようになります。
2. PIN コードログインを設定します。サーバータイプに [Ext.] を選択している場合に設定できます。  
PIN コード認証：[オン] または [オフ] を選択してください。
3. ネットワークユーザー設定をします。  
ネットワークユーザー情報の取得：[オン] または [オフ] を選択してください。
4. [サーバー設定] ボタンをクリックして、サーバー設定をします。  
LDAP：[オン] になっていることを確認してください。[オフ] の場合、[ネットワーク設定] の [プロトコル設定] ページで [オン] に設定してください。  
LDAP サーバー名：LDAP サーバー名または IP アドレスを入力してください。  
LDAP ポート番号：LDAP ポート番号を入力してください。  
検索のタイムアウト：秒単位で入力してください。  
LDAP セキュリティー：[ネットワーク設定] の [プロトコル設定] ページで設定してください。
5. [ユーザー情報取得タグ] を設定します。[名前 1]、[名前 2]、[メールアドレス] を入力してください。

**4.** [設定] ボタン、[戻る] ボタンの順にクリックします。

**5.** [不明ユーザー設定] の設定をします。

[部門管理] が [オン] の場合、または [基本] で [ネットワーク認証] を選択した場合に表示されます。

[ID 不明ジョブ処理]

[許可する] または [拒否する] を選択してください。

[不明ユーザー設定]

[ID 不明ジョブ処理] で [許可する] を選択した場合に表示されます。[不明ユーザー設定] をクリックします。[不明ユーザー詳細情報] ページが開きます。

**6.** [不明ユーザー詳細情報] の設定をします。

[ユーザー名]

必要に応じてユーザー名を変更してください。

[ユーザー名 (フリガナ)]

必要に応じてユーザー名のフリガナを変更してください。

[部門名]

[部門管理] が [オン] の場合に表示されます。[部門リスト] ボタンをクリックして表示されるリストから、部門名を選び、[設定] ボタンをクリックください。

**7.** [認可情報] の設定をします。

[プリンター印刷制限]

[制限しない] または [使用禁止] を選択してください。

**8.** [設定] ボタンをクリックします。

## 管理者情報

エンベデッドサーバーにアクセスするための、管理者情報の設定を行います。

1. ナビゲーションメニューの[管理設定]をクリックし、下に表示される[認証]をクリックします。[管理者情報]ページが開きます。必要に応じて、次の設定をします。

[ログインユーザー名]

管理者のログインユーザー名を変更することができます。

[パスワード]、[パスワード(確認)]

管理者のログインパスワードを変更することができます。パスワードの変更をする場合は、[パスワード]および[パスワード(確認)]の両方に同じパスワードを入力してください。

---

参考：ユーザー名やパスワードを忘却した場合は、「お問い合わせ窓口」への連絡が必要となりますので忘れないようにしてください。詳細については[管理者ログインのユーザー名やパスワードを忘れてしまった。\(58 ページ\)](#)を参照してください。

---

2. [設定] ボタンをクリックします。

## 通知 / レポート

このセクションでは通知 / レポートの詳細設定を行います。

### 通知 / レポート設定

1. ナビゲーションメニューの[管理設定]をクリックし、下に表示される[通知/レポート]をクリックします。[通知 / レポート設定]ページが開きます。

2. [メンテナンスレポート] の設定をします。

[製品 ID]

製品 ID を入力します。

[受取人アドレス]

レポートを受け取るメールアドレスを入力します。メールアドレスを複数入力するには、メールアドレスをセミコロン (;) で区切って入力します。

[サブジェクト]

レポートの件名を入力します。

[メンテナンスレポート間隔]

ドロップダウンリストより [なし]、[月ごと]、[週ごと]、[日ごと]、[時間ごと] を選択します。

[月ごと] を選択した場合、送信する月をチェックし、[日] と [時刻] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[週ごと] を選択した場合、[曜日] と [時刻] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[日ごと] を選択した場合、[時刻] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[時間ごと] を選択した場合、[時間ごと] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[直ちに実行]

[送信] ボタンをクリックすると、メンテナンスレポートを受取人に送信します。

**3.** [ イベントレポート / スケジュールレポート 1 ( ~ 3 ) ] の設定をします。

[ 受取人 1 ( ~ 3 ) のメールアドレス ]

受取人 1 ( ~ 3 ) のメールアドレスを入力します。

[ サブジェクト ]

変数を使用して、レポートの件名を入力します。

[ イベントレポート ]

[ イベントレポート項目 ] で、イベントレポートで知らせる項目を選択し、[ イベントレポート間隔 ] で送信するレポートの間隔を入力します。

[ スケジュールレポート ]

[ スケジュールレポート項目 ]

[ カウンターステータス ] をチェックすると、カウンターレポートを添付します。

[ スケジュールレポート間隔 ]

ドロップダウンリストより [ なし ]、[ 月ごと ]、[ 週ごと ]、[ 日ごと ]、[ 時間ごと ] を選択します。

[ 月ごと ] を選択した場合、送信する月をチェックし、[ 日 ] と [ 時刻 ] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[ 週ごと ] を選択した場合、[ 曜日 ] と [ 時刻 ] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[ 日ごと ] を選択した場合、[ 時刻 ] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[ 時間ごと ] を選択した場合、[ 時間ごと ] のドロップダウンリストから数値を選択します。

[ 直ちに実行 ]

[ 送信 ] ボタンをクリックすると、スケジュールレポートを受取人 1 ~ 3 に送信します。

**4.** [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## 履歴設定

このセクションでは履歴設定の詳細設定を行います。

### 履歴設定

**1.** ナビゲーションメニューの [ 管理設定 ] をクリックし、下に表示される [ 履歴設定 ] をクリックします。[ 履歴設定 ] ページが開きます。

**2.** [ ジョブ履歴 ] の設定をします。

[ 受取人アドレス ]

レポートを受け取るメールアドレスを入力します。メールアドレスを複数入力するには、メールアドレスをセミコロン ( ; ) で区切って入力します。

[ 件名 ]

ジョブ履歴の件名を入力します。

[ 自動送信 ]

ジョブ履歴の送信を設定します。[ オン ] または [ オフ ] を選択してください。

[履歴数]

[自動送信]を[オン]に設定した場合、送信時のジョブ履歴件数を入力します。

[個人情報]

ジョブ履歴に個人情報を含めるかどうかを設定します。[含める]または[含めない]を選択してください。

[直ちに実行]

[送信]ボタンをクリックすると、ジョブ履歴を受取人に送信します。

3. [設定]ボタンをクリックします。

## SNMP

このセクションでは SNMP の詳細設定を行います。

\*：このマークが付いている設定を変更した場合、デバイスまたはネットワークの再起動が必要です。再起動は [リセット] のページで行ってください。

### SNMP 設定

1. ナビゲーションメニューの [管理設定] をクリックし、下に表示される [SNMP] をクリックします。[SNMP 設定] ページが開きます。
2. [SNMPv1/v2c] の設定をします。

[SNMPv1/v2c]

SNMP v1/v2c プロトコルを有効にするかどうかを設定します。[ネットワーク設定] の [プロトコル設定] ページで [オン]、[オフ] から選択します。

[リードコミュニティ名]

読み取り要求用のコミュニティ名を入力します。初期設定のリードコミュニティ名は public です。設定変更後は、本体を再起動する必要があります。

[ライトコミュニティ名]

変更要求用のコミュニティ名を入力します。初期設定のリードコミュニティ名は public です。設定変更後は、本体を再起動する必要があります。

[sysContact]

MIB-II sysContact オブジェクトです。通常はネットワーク管理者のメールアドレスです。

[sysName]

MIB-II sysName オブジェクトです。通常は本機のホスト名またはドメイン名です。

[sysLocation]

MIB-II sysLocation オブジェクトです。[デバイス設定] の [システム設定] ページに設定されている情報が表示されます。表示を変更する場合は、[システム] をクリックします。

[HP Web Jetadmin 互換]

HP Web Jetadmin からのアクセスを可能にするかどうかを、[オン] または [オフ] で設定します。設定変更後は、本体を再起動する必要があります。

[ 認証トラップ ]

認証トラップを使用するかどうかを設定します。[ オン ]にすると、不正なコミュニティ名を使用した読み取りや書き込みが試みられたときに、SNMP トラップが生成されます。トラップは次項目で指定するトラップアドレスに送信されます。設定変更後は、本体を再起動する必要があります。

[ トラップ受信 ]

[ 設定 / 登録 ] ボタンをクリックすると、トラップ受信が設定されます。

**3.** [SNMPv3] の設定をします。設定変更後は、本体を再起動する必要があります。

[SNMPv3]

SNMPv3 プロトコルを使用するかどうかを設定します。[ ネットワーク設定 ] の [ プロトコル設定 ] ページにある [ オン ]、[ オフ ] から選択します。

[ 認証 ]

SNMP 通信を行う際に、認証を行うかどうかを設定します。

[Hash]

Hash アルゴリズムを [MD5] または [SHA1] から選択します。[ 認証 ] を [ オン ] にした場合に表示します。

[ 暗号通信 ]

SNMP 通信を行う際に、通信の暗号化を行うかどうかを設定します。[ 認証 ] を [ オン ] にした場合に表示します。

[ 暗号化 ]

暗号化アルゴリズムを [DES] または [AES] から選択します。[ 認証 ] を [ オン ] にした場合に表示します。

[ 読み取り専用ユーザー ]

読み取り専用ユーザーの [ ユーザー名 ] および [ パスワード ] を入力します。

[ 読み書きユーザー ]

読み書きユーザーの [ ユーザー名 ] および [ パスワード ] を入力します。

**4.** [ 設定 ] ボタンをクリックします。

## リセット

このセクションでは、デバイスやネットワークの再起動、プリンターの初期化を行います。

### 再起動

1. ナビゲーションメニューの [ 管理設定 ] をクリックし、下に表示される [ リセット ] をクリックします。[ リセット ] ページが開きます。
2. 必要に応じて、デバイスまたはネットワークを再起動します。

[ デバイスの再起動 ]

[ デバイスの再起動 ] ボタンをクリックすると、デバイスが再起動します。

### [ネットワークの再起動]

[ネットワークの再起動] ボタンをクリックすると、ネットワークサービスのうち、関連するサービスだけが再起動します。

### 工場出荷時リセット

1. ナビゲーションメニューの[管理設定]をクリックし、下に表示される[リセット]をクリックします。[リセット]ページが開きます。
2. 必要に応じて、[初期化] ボタンをクリックします。デバイスが工場出荷時の設定に戻ります。

## 10 トラブルシューティング

エンベデッドサーバーでトラブルが発生した場合は、次の表を参照して確認や処理を行ってください。

### トラブルシューティング

不具合内容	確認事項	対処方法	参照
エンベデッドサーバーにアクセスできない。	本機の電源は入っていますか？	電源を入れてから待機状態になるまで待ち、エンベデッドサーバーにアクセスしてください。	ハードウェアガイド
	ネットワークケーブルは適切に接続されていますか？	ネットワークケーブルを正しく接続してください。	ハードウェアガイド
	ネットワークの設定は正しいですか？	操作パネルからネットワーク設定を実行してください。正しい設定については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。	—
	本機の IP アドレスは正しく入力されていますか？	正しい IP アドレスを入力してください。ネットワーク管理者に本機の IP アドレスを問い合わせてください。	—
	Web ブラウザーは正しくネットワーク設定が行われていますか？	Web ブラウザーのネットワーク設定をチェックしてください。詳細は、Web ブラウザーのヘルプ機能を参照してください。	—
	管理者によって IP フィルター機能が設定されていますか？	IP フィルター設定に合ったアドレスから、エンベデッドサーバーにアクセスしてください。	<a href="#">IP フィルター (IPv4) (32 ページ)</a> <a href="#">IP フィルター (IPv6) (33 ページ)</a>
	セキュリティ設定 > ネットワークセキュリティ > サーバー機能時の設定の [HTTP セキュリティ] が、[HTTP セキュア (HTTPS)] に設定されていますか？	HTTP セキュリティがセキュア (HTTPS) に設定されている場合は、https:// からはじまる URL を指定します。http:// ではエンベデッドサーバーにアクセスできません。	<a href="#">ネットワークセキュリティ (45 ページ)</a>
	ブラウザのバージョンは、エンベデッドサーバーで対応しているバージョンより新しいですか？	エンベデッドサーバーで対応されているバージョンのブラウザを使用してください。	<a href="#">動作環境 (5 ページ)</a>
エンベデッドサーバーの表示が文字化けする。	ブラウザのバージョンは、エンベデッドサーバーで対応しているバージョンより新しいですか？	エンベデッドサーバーで対応されているバージョンのブラウザを使用してください。	<a href="#">動作環境 (5 ページ)</a>

不具合内容	確認事項	対処方法	参照
設定動作ができません。	印刷動作中ではありませんか？	動作が完了するまでお待ちください。	—
設定が確定されません。	設定を行った後、[設定]をクリックしましたか？	設定を行った後は、他のページに移動したりエンベデッドサーバーを閉じる前に、かならず[設定]をクリックして、確定してください。	—
	再起動が必要な設定の場合、[再起動]をクリックしましたか？	本体の再起動を行ってください。設定が保存されます。	<a href="#">リセット (55 ページ)</a>
	エンベデッドサーバーと同時に、本体の操作パネル上でシステムメニューの操作を行っていませんか？	システムメニューの操作が完了してから、エンベデッドサーバーの操作を行ってください。	—
管理者ログインのユーザー名やパスワードを忘れてしまった。	-	お問い合わせ窓口までご連絡ください。	ハードウェアガイド
エラーや警告が表示される。	本体操作パネル表示に、エラーや警告が表示されていますか？	ハードウェアガイドを参照して、表示されたメッセージに対応する対応手順を実行してください。	ハードウェアガイド
設定した内容が有効にならない。	設定後、ネットワークの再起動を促すメッセージが表示されたとき、[ネットワークの再起動]ボタンをクリックしましたか？	設定後、[ネットワークの再起動]ボタンをクリックしてください。関連するネットワークサービスだけが再起動します。	—

---

## ページプリンタ XL-8400 Fujitsu Printer Internet Service 使用説明書

B5WY-1851-01 Z0-00

発行日 2023年11月  
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。